



広瀬木ノ宮遺跡

市営住宅建設(広瀬第五団地U-F棟新築)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

広瀬木ノ宮遺跡

市営住宅建設(広瀬第五団地U-F棟新築)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇〇六

2006

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



広瀬木ノ宮遺跡

市営住宅建設(広瀬第五団地U F棟新築)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2006

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。とりわけ、赤城山南麓は、その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡に代表されるように遠い旧石器時代から現在まで人々のさまざまな生活が繰り広げられました。

古代において前橋台地の広大に広がる穀倉地帯を背景に、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連続と築かれ、上毛野の国を中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鍋をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

近代では、横浜港が開港されると、輸出の花形商品として生糸をもって一番乗りしたのが、前橋の糸商人でした。前橋藩は、藩をあげて蚕糸生産に力を注ぎ、我が国初の製糸の機械化に取り組みました。前橋は、生糸によって横浜と結びつき、深い文化交流が始まりました。

今回、報告書を上梓する広瀬木ノ宮遺跡は、天神山古墳や八幡山古墳が造られた広瀬地区の調査であります。調査によって、溝によって区画された中から、建物跡や祭祀跡が発見されて多くの注目を集めました。残念ながら現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、猛暑の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成18年12月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 根岸 雅

例　言

1. 本書は市営住宅建設（広瀬第五団地U-F棟新築）に伴う広瀬木ノ宮遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長　根岸　雅）が主体となって実施し、調査実務は委託を受けた（有）毛野考古学研究所が行った。調査担当者は同研究所調査員・日沖剛史、伊藤順一、宮田忠洋である。
3. 発掘調査及び整理・報告書作成は、平成18年6月20日～平成18年12月8日の期間で実施した。
4. 遺跡は、群馬県前橋市広瀬町三丁目20番地ほかに所在し、遺跡のコード・面積は下記の通りである。

遺跡コード：18G58　　面積：700m²
5. 本書の編集は（有）毛野考古学研究所が行い、同研究所調査員伊藤順一、宮田忠洋が担当した。執筆は、Iを鈴木雅浩（前橋市教育委員会）、II・III-2を宮田、III-1・IV・V・VIを伊藤がそれぞれ担当した。
6. 調査に関わる資料は一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。
7. 発掘調査・整理作業に関わった方々は下記の通りである。

大野裕子　真下弘美　深谷道子　鈴木三枝子　石坂順一　小林隆一　中村勝造　野山弘志
金子孝五郎　中島ミホ子　湯浅美和子　永井祐二　春原正克　山口昌子　石田満理　磯　洋子
武士久美子　半澤利江　大塚規子
8. 発掘調査の実施から報告書刊行に至る過程で下記の機関・諸氏の御指導・御協力を賜った。個々に記して感謝申し上げる次第である。（敬称略）

前橋市建築住宅課
石川正之助　出浦　崇　梅澤重昭　加部二生　小林　正　坂口　一　中里正憲　中山義啓
橋本博文　福田貴之　松田　猛　右島和夫　水谷貴之　横澤真一

凡　例

1. 本書で使用した地形図の発行者・縮尺は各図キャプション脇に示した。
2. 遺構挿図の縮尺は竪穴住居跡・土坑の平面図及び土層図・エレベーション図を縮尺1/60、カマド等を縮尺1/30、溝跡を縮尺1/100、掘立柱建物跡を縮尺1/80を基本として掲載し、各挿図にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、世界測地系(IX系)は遺跡全体図中に示してある。
3. 遺構の規模は基本的に中軸線上で計測し、上端での数値である。長（主）軸方位は座標北を基準とした振れを示す。また、土層図・エレベーション図の基準線数値は標高を示す。
4. 遺物挿図の縮尺は1/1～1/5の範囲で掲載し、挿図中にスケールを付してある。遺物写真は原則として、遺物挿図とほぼ同縮尺である。
5. 挿図中に使用したスクリーントーン及びドットは次のような意味を示し、その他必要に応じて挿図中に注釈を示した。

 : 粘土　●: 土器　▲: 石製品・鉄製品・鉄滓

目 次

はじめに
例 言
凡 例
目 次
挿図目次
表 目 次
写真図版目次

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の立地と環境	2
	1. 地理的環境	2
	2. 歴史的環境	2
III	調査の方法と経過	3
	1. 調査の方法	3
	2. 調査の経過	3
IV	基本層序	5
V	発見された遺構と遺物	5
	1. 壁穴住居跡	5
	2. 遺物集中遺構	10
	3. 捜立柱建物跡	10
	4. 井 戸	11
	5. 土 坑	11
	6. ピット	11
	7. 溝	13
	8. 遺構外出土遺物	14
VI	調査のまとめ	46
	写真図版	
	抄 錄	

挿図目次

Fig. 1 遺跡の位置	1	Fig. 24 H-3号住居跡出土遺物	31
Fig. 2 周辺の遺跡	2	Fig. 25 H-4号住居跡出土遺物	31
Fig. 3 遺跡全体図	4	Fig. 26 H-5号住居跡出土遺物	32
Fig. 4 基本層序	5	Fig. 27 H-6号住居跡出土遺物	32
Fig. 5 H-1号住居跡	15	Fig. 28 H-7号住居跡出土遺物	32
Fig. 6 H-2・9号住居跡、 H-2号住居跡カマド	16	Fig. 29 H-8号住居跡出土遺物	32
Fig. 7 H-9号住居跡カマド	17	Fig. 30 H-9号住居跡出土遺物	32
Fig. 8 H-3・14・20号住居跡 セクション図	17	Fig. 31 H-10号住居跡出土遺物	32
Fig. 9 H-3・15号住居跡、 H-3号住居跡カマド	18	Fig. 32 H-12号住居跡出土遺物	32
Fig. 10 H-15号住居跡カマド、 H-4・14・20号住居跡	19	Fig. 33 H-13号住居跡出土遺物	32
Fig. 11 H-4・14号住居跡カマド、 H-6号住居跡	20	Fig. 34 H-14号住居跡出土遺物	33
Fig. 12 H-5号住居跡	21	Fig. 35 H-15号住居跡出土遺物	33
Fig. 13 H-7・8号住居跡	22	Fig. 36 H-16号住居跡出土遺物（1）	33
Fig. 14 H-8号住居跡カマド、 H-10号住居跡	23	Fig. 37 H-16号住居跡出土遺物（2）	34
Fig. 15 H-12号住居跡	24	Fig. 38 H-17号住居跡出土遺物	34
Fig. 16 H-13・18・19号住居跡	25	Fig. 39 H-18号住居跡出土遺物	34
Fig. 17 H-16・17号住居跡、 H-17号住居跡カマド	26	Fig. 40 H-19号住居跡出土遺物	34
Fig. 18 1号遺物集中遭構、 I-1・2号井戸	27	Fig. 41 H-20号住居跡出土遺物	34
Fig. 19 B-1号掘立柱建物跡	28	Fig. 42 1号遺物集中遭構出土遺物	35
Fig. 20 土坑・ピット分布図	29	Fig. 43 I-1号井戸出土遺物	36
Fig. 21 W-1・2号溝	30	Fig. 44 I-2号井戸出土遺物	36
Fig. 22 H-1号住居跡出土遺物	31	Fig. 45 D-8号土坑出土遺物	36
Fig. 23 H-2号住居跡出土遺物	31	Fig. 46 51号ピット出土遺物	36
		Fig. 47 W-1号溝出土遺物	37
		Fig. 48 W-2号溝出土遺物（1）	37
		Fig. 49 W-2号溝出土遺物（2）	38
		Fig. 50 W-3号溝出土遺物	38
		Fig. 51 W-7号溝出土遺物	38
		Fig. 52 W-14号溝出土遺物	38
		Fig. 53 遺構外出土遺物	38
		Fig. 54 本遺跡と上川瀬鶴巻II遺跡の位置	46

表 目 次

Tab. 1 土坑一覧表	12
Tab. 2 ピット一覧表	12
Tab. 3 遺物観察表	39

写真図版目次

P L. 1	遺跡の位置と周辺の地形	P L. 8	H-6号住居跡出土遺物
P L. 2	調査区全景		H-7号住居跡出土遺物
P L. 3	H-1号住居跡全景		H-8号住居跡出土遺物
	H-1号住居跡カマド		H-9号住居跡出土遺物
	H-2・9号住居跡全景		H-10号住居跡出土遺物
	H-9号住居跡カマド		H-12号住居跡出土遺物
	H-3・15号住居跡全景		H-13号住居跡出土遺物
	H-3号住居跡出土状況		H-14号住居跡出土遺物 (1)
	H-4・14号住居跡全景	P L. 9	H-14号住居跡出土遺物 (2)
	H-5号住居跡全景		H-15号住居跡出土遺物
P L. 4	H-5号住居跡カマド礎出土状況		H-16号住居跡出土遺物 (1)
	H-5号住居跡カマド	P L. 10	H-16号住居跡出土遺物 (2)
	H-6号住居跡全景		H-17号住居跡出土遺物
	H-7号住居跡全景		H-18号住居跡出土遺物
	H-8号住居跡全景		H-19号住居跡出土遺物
	H-10号住居跡全景		H-20号住居跡出土遺物
	H-12号住居跡全景	P L. 11	I号遺物集中遺構出土遺物
	H-13号住居跡全景		I-1号井戸出土遺物 (1)
P L. 5	H-16・17号住居跡全景		I-2号井戸出土遺物
	H-18・19号住居跡全景	P L. 12	I-1号井戸出土遺物 (2)
	H-20号住居跡全景		D-8号土坑出土遺物
	B-1号掘立柱建物跡P ₆ セクション		51号ピット出土遺物
	B-1号掘立柱建物跡全景		W-1号溝出土遺物
P L. 6	I-1号井戸全景	P L. 13	W-2号溝出土遺物
	I-2号井戸全景		W-3号溝出土遺物
	W-1号溝遺物出土状況		W-7号溝出土遺物
	W-2号溝セクション		W-14号溝出土遺物
	1号遺物集中遺構遺物出土状況		遺構外出土遺物
P L. 7	H-1号住居跡出土遺物		
	H-2号住居跡出土遺物		
	H-3号住居跡出土遺物		
	H-4号住居跡出土遺物		
	H-5号住居跡出土遺物		

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、市営住宅建設（広瀬第五団地UF棟新築）に伴い、事前に実施した試掘調査結果を踏まえ平成18年4月24日、前橋市長 高木政夫より、埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 根岸雅（以下「調査団」という。）に対し発掘調査実施について依頼した。しかし、既に市内数ヶ所において調査団直営による発掘及び整理調査が実施されており、調査団直営で実施することは困難と判断した。よって、民間調査会社による整理調査を進める方針を決め、前橋市と調査団の間で平成18年5月11日付けで埋蔵文化財発掘調査に関する協定書を締結した。これに基づき、平成18年6月15日付けで、依頼者である前橋市と調査団との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、平成18年6月20日付けで民間調査会社である有限会社 毛野考古学研究所 取締役 長井正欣との間で委託契約を締結し、発掘調査開始に至る。

なお、遺跡名称「広瀬木ノ宮」（市遺跡コード：18G58）の「木ノ宮」は旧地籍の小字名を採用したものである。

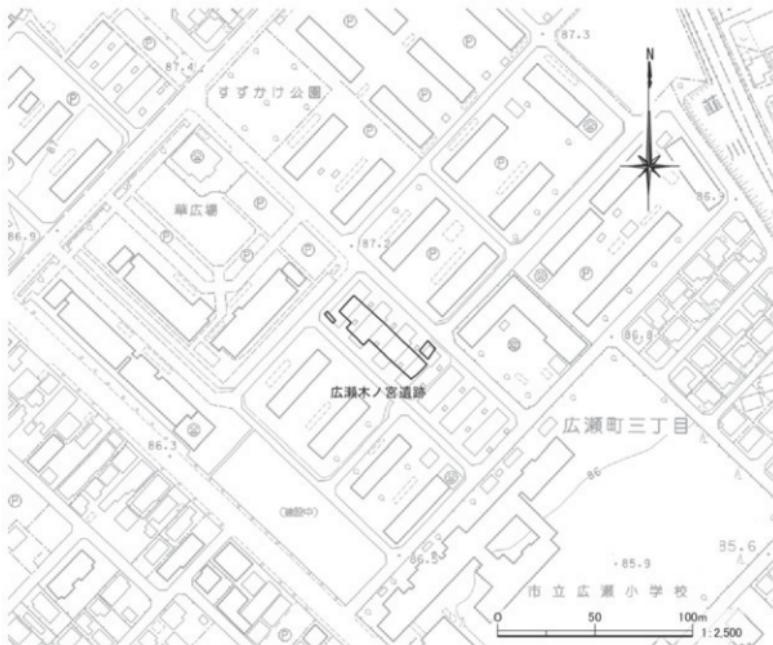


Fig. 1 遺跡の位置

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

本遺跡は、前橋台地、広瀬川右岸の河岸段丘上に位置している。台地面はほとんど平坦で、前橋泥流堆積面上を水成上部ローム層が覆っている。台地北東縁は北西部から南東部にかけて段丘崖が伸びており、帶状に延びる広瀬川低地帯との境を形成し、その比高は3～5mである。本遺跡の標高は87mを測る。

2. 歴史的環境

ここでは、本遺跡に関する古墳時代から中世の周辺遺跡について概説する。

古墳時代の集落遺跡では、本遺跡の北西約1.3kmに位置する後閑団地遺跡（3）で前期の住居跡と石櫛墓（7世紀後半～8世紀後半）、同じく北西1.3kmに位置する坊山遺跡（4）、後閑Ⅱ遺跡（7）、南西2.1kmに位置する川曲遺跡（20）で後期の住居跡がそれぞれ調査されている。南東約1.3kmに位置する山王若宮遺跡（14）では前期の住居跡と古墳（周溝部のみ）が、本遺跡と隣接する上川渕鶴巻遺跡（9）では、同時代と推定される、南北に走る溝状遺構が確認されている。

本遺跡を含む前橋旧市街から東善町にかけて北西から南東方向に帶状に延びる一帯は「広瀬古墳群」と呼ばれ、「上毛古墳総覧」（昭和13年）によると、旧勢多郡上川渕村に113基、旧佐波郡上陽村に41基の古墳が確認されている。しかし、昭和40年に始まる宅地造成事業で、そのほとんどが未調査のまま平夷され、現在、形状を残すものは前方後方墳の八幡山古墳（2、全長約130m）、前方後円墳の天神山古墳（5、全長約128m）、金冠塚古墳（11、全長52m）、帆立貝形古墳の亀塚山古墳（10）、円墳の飯玉神社古墳（8）、文殊山古墳（12）、阿弥陀山古墳（13）程度である。また、現存しないが、本遺跡南側で昭和45年、前橋市教育委員会により前方後円墳の上兩家二子山古墳（推定全長80m以上）、円墳の乞食塚古墳、ポンゼン山古墳、オトウカ山古墳等が発掘・測量されている。

奈良・平安時代の遺跡としては、後閑遺跡（6）、後閑Ⅱ遺跡、中大門遺跡（19）があげられる。特に、後閑団地遺跡では8世紀後半から9世紀前半の住居跡が検出されている。また、南西側に広がる水田地帯は、古代国家条里制地割の跡が明確に認められる。中世では、周辺に後閑環濠集落（15）、山王環濠集落（16）、西善環濠集落（17）、下佐鳥環濠集落（18）などの環濠集落がある。

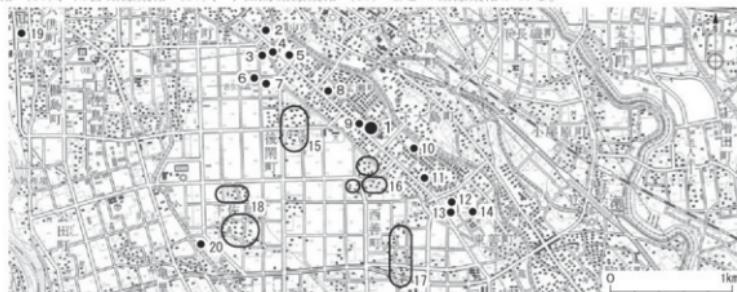


Fig. 2 周辺の遺跡 (1/50,000 国土地理院発行「前橋」)

III 調査の方法と経過

1. 調査の方法

前橋市教育委員会による試掘調査の成果により、本遺跡からはローム層またはローム漸移層において古墳時代及び奈良・平安時代の遺構が確認できるものと予測された。調査は、遺構確認面までの土層を重機で除去した後に、人力による精査及び遺構の堀り下げを行った。

住居跡の調査は、埋設状態・遺物出土状態・構築状態を観察・記録し、掘り方のある遺構は掘り方調査を実施した。カマドの調査では、掛け口・焚き口・燃焼部・煙道部などの状態把握に努め、灰・焼土・粘土等の分布・堆積状態を慎重に観察した。

B-1号掘立柱建物跡は、調査区外に延びている可能性があることから、前橋市教育委員会文化財保護課との協議の上、西側を拡張し遺構の範囲を確認した。また、W-1号溝及びW-2号溝に関しても、調査終盤にW-1号溝は南東側、W-2号溝は北西側に試掘トレーンチをいれ、各溝の延長を確認した。

I-1号及びI-2号井戸は上層から中層を人力によって半截して土層観察を行い、さらに人力で可能な深度まで掘り下げた。また、底面までは安全に配慮し、埋め戻し時に重機による断ち割り調査を実施した。

図面記録は、公共座標を基準とした4m×4mのグリッドを設定して行った。各遺構図の縮尺は、住居跡・土坑・井戸・ピットを縮尺1/20、カマドを縮尺1/10、掘立柱建物跡・溝を縮尺1/40を基本に平面図を作成し、各遺構の土層図・エレベーション図はカマドを縮尺1/10、他を縮尺1/20で作成した。写真撮影は調査の各段階で隨時行い、白黒35mm、カラーリバーサル35mm、カラー35mmの各フィルムのほか、デジタルカメラも併用した。遺跡の全景写真は、ラジコンヘリコプターを用いて行った。

2. 調査の経過

発掘調査の調査面積は約700m²、拡幅調査面積約36m²である。現地発掘調査は2006(平成18)年7月3日から同年9月4日にかけて実施した。

7月3日より、調査員による器材・プレハブ・簡易トイレの搬入を行い、安全対策を実施した。作業は、まず重機を用いて、ローム漸移層を遺構確認面として、表土掘削を開始した。

7月4日から人力による遺構確認作業を開始。個別の遺構の調査は調査区北側より実施し、切り合ひ関係が新しい遺構から調査を行った。

各遺構の調査終了後、8月28日に調査区全体の空撮、8月31日に調査区北側より埋め戻しを開始し、並行してI-1号井戸・I-2号井戸の断ち割り調査を実施した。9月1日、発掘器材の撤収、調査区内の清掃、埋め戻しを完了。9月4日、プレハブ・仮設トイレの撤去を行い、現地における調査の工程を終了した。

整理調査は平成18年9月5日より報告書作成に取り組み、遺物整理、遺構図面の整理、原稿執筆等を漸次進め、12月1日までに全ての調査工程を完了させる運びとなった。

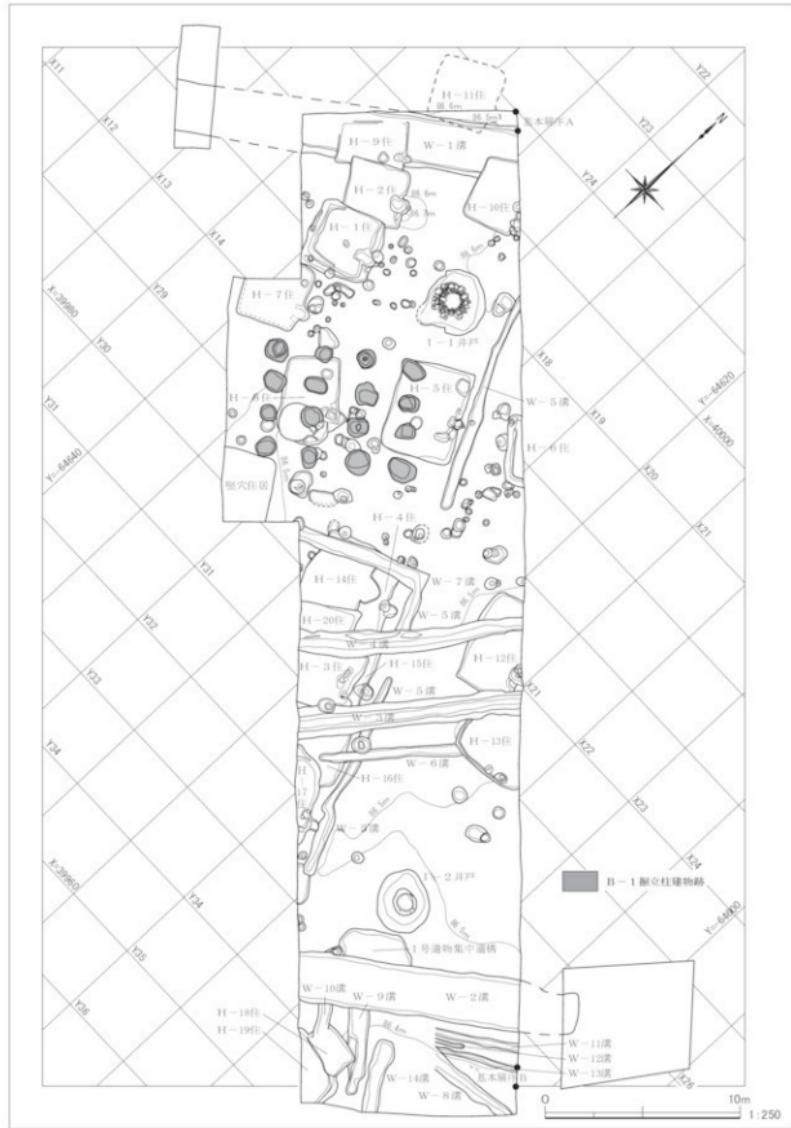


Fig. 3 遗跡全体図

IV 基本層序

調査区の北西（A地点）と南西（B地点）の2か所の壁面で基本層序の観察・記録を行った。層序について以下のことおりである。

I : 表土層。II : 暗灰色土。しまり強く、粘性ない。浅間B軽石、鉄分を大量に含む。III : 黒褐色土。しまり強く、粘性ない。浅間B軽石混土層。IV : 黒褐色土。しまりあり、粘性ある。浅間C軽石を含む。V : 暗褐色土。しまりあり、やや粘性ある。浅間C軽石を少量含む。VI : 暗褐色土。しまり弱く、やや粘性ある。VII : 黄褐色土。ローム層。

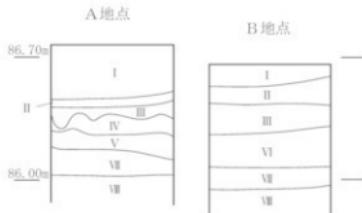


Fig. 4 基本層序 ($S = 1 / 40$)

V 発見された遺構と遺物

1. 穴穴住居跡

H-1号住居跡（遺構：Fig. 5、PL. 3 / 遺物：Fig. 22、PL. 7）

位置：X 14 Y 26～X 15 Y 27 グリッド 検出状態：H-2号住、D-14号土坑、P-4・60と重複し、H-2号住より新しく、他より古い。平面形態：隅丸方形 規模：3.80 × 3.70 m 主軸方位：N-69° - E 残存深度：43cm 床面の状態：カマド周辺で硬化面が検出された。やや起伏が見られる。壁周溝：西壁及び北・南壁の一部で検出された。柱穴：主柱穴は検出されなかつたがピットが床面で1基（P₁）、西側の棚状部分で1基（P₂）検出された。規模はP₁が36×26cm・深度15cm、P₂が25×22cm・深度14cmである。カマド：東壁の南寄りに位置。両袖とも河原石を芯材とし、粘質土を用いて構築されている。第4層に灰の堆積が確認された。貯蔵穴：検出されなかつた。施設：北壁を除いた部分で棚状施設が検出されている。遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から土師器片、須恵器片が大量に出土する。また、南東コーナー付近の埋没土上層では埴形甌が1点出土している。床面ではカマド周辺に集中していた。遺物：土師器片・甌2点以上・台付甌片・須恵器蓋片・壺・甌・灰釉陶器皿、鉄滓1点が出土している。時期：9世紀後半

H-2号住居跡（遺構：Fig. 6、PL. 3 / 遺物：Fig. 23、PL. 7）

位置：X 14 Y 25～X 15 Y 26 グリッド 検出状態：H-1・9号住居跡と重複する。H-1号住より古く、H-9号住より新しい。平面形態：隅丸方形と想定される。規模：3.70 × 3.60 m 主軸方位：N-52° - E 残存深度：24cm 床面の状態：カマド周辺で貼り床が検出された。壁周溝：検出されなかつた。柱穴：検出されなかつた。カマド：東壁や南寄りに位置。遺存状態は不良。第6層に灰の堆積が確認された。貯蔵穴：検出されなかつた。遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から土師器片・須恵器片が大量に出土する。カマド周辺から南東コーナーにかけて遺物が集中する。遺物：土師器片2点以上・甌3点以上・須恵器片2点以上・壺2点以上・皿片・甌片・鉄製紡錘車輪部・茎部が1点ずつ出土している。時期：9世紀中頃～後半

H-3号住居跡（遺構：Fig. 8・9、PL. 3 / 遺物：Fig. 24、PL. 7）

位置：X 18 Y 30～X 19 Y 31 グリッド 検出状態：H-15・16・20号住、W-3・4号溝と重複し、H-15・16・20号住より新しく、W-3・4号溝より古い。規模：不明 主軸方位：不明 残存深度：22cm 床面の状態：貼り床・硬化面は検出されなかった。やや凹凸が見られる。壁周溝：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。カマド：東壁南寄りに位置していたと考えられる。遺存状態は不良。貯蔵穴：カマドに向かって右側に位置する。規模は 86 × 70cm・深さ 39cm。土師器壺・須恵器壺・塊が出土している。遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：住居内に散在するが、特に貯蔵穴周辺で集中して出土した。遺物：土師器壺4点以上・小型甕1点・コの字甕片・須恵器皿3点・壺2点・塊4点以上・甕片・刀子片が出土している。時期：9世紀後半

H-4号住居跡（遺構：Fig. 10・11、PL. 3 / 遺物：Fig. 25、PL. 7）

位置：X 18 Y 29～X 19 Y 29 グリッド 検出状態：H-14・20号住、W-4・7号溝と重複し、本遺構が最も古い。規模：不明 主軸方位：不明 残存深度：18cm 床面の状態：カマド周辺が硬化していた。壁周溝：検出されなかった。カマド：東壁に付設されている。遺存状態は不良。灰の堆積は確認されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中より多く出土する。遺物：土師器壺4点以上・甕片・須恵器蓋片・壺1点・甕片・鐵滓1点が出土している。時期：重複する遺構の遺物が混在するが、7世紀後半の可能性が考えられる。

H-5号住居跡（遺構：Fig. 12、PL. 3・4 / 遺物：Fig. 26、PL. 7）

位置：X 16 Y 27～X 18 Y 27 グリッド 検出状態：試掘トレンチにより南壁の一部が、またカクランにより北壁が削平されている。B-1号掘立柱建物跡と重複し、本遺構が新しい。規模：東西 3.80 m 主軸方位：N = 63° - E 残存深度：44cm 床面の状態：平坦で、カマド周辺が硬化していた。壁周溝：検出されなかった。柱穴：検出されなかったが、3基の浅いピットが検出されている。規模は P₁ が 82 × 51cm・深さ 7cm、P₂ が 78 × 71cm・深さ 17cm、P₃ が 68 × 59cm・深さ 9cm で、P₃ からは土師器壺が出土している。カマド：東壁中央に位置。カマド周辺からは拳大の礫が多量に出土した。袖部及び煙道の立ち上がり部からは芯材と考えられる河原石が検出されている。灰の堆積は第5層において確認された。貯蔵穴：検出されなかった。遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土上層で有孔砥石・刀子が出土している。遺物：土師器壺1点・台付甕台部1点・甕2点以上・須恵器片・塊片・甕片・刀子片・砥石1点・土錐1点が出土している。時期：9世紀後半

H-6号住居跡（遺構：Fig. 11、PL. 4 / 遺物：Fig. 27、PL. 8）

位置：X 18 Y 26～X 19 Y 27 グリッド 検出状態：南・北壁の一部と西壁を検出するのみであった。また、D-5号土坑、P-54と重複し、本遺構が新しい。平面形態：不明 規模：南北 3.56 m 主軸方位：不明 残存深度：43cm 床面の状態：地山が硬化していた。やや凹凸が見られる。壁周溝：南壁から西壁にかけて検出された。柱穴：検出されなかった。カマド：不明 貯蔵穴：不明 遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から土師器片・須恵器片・甕片がわずかに出土するのみであった。遺物：土師器片・甕片・須恵器片・甕片が出土している。時期：出土遺物が少なく断定できないが、7世紀後半の可能性が考えられる。

H-7号住居跡（遺構：Fig.13、PL. 4 / 遺物：Fig.28、PL. 8）

位置：X 14 Y 28～X 15 Y 28 グリッド 検出状態：当初は北東コーナーからカマドにかけてのみの検出であったが、調査区を拡幅した際に残りの遺構プランを確認している。なお、拡幅時の遺構範囲については未掘削である。平面形態：隅丸方形と想定される。規模：推定 3.40×3.34 m 主軸方位：N-61°-E 残存深度：20cm 床面の状態：平坦で、貼り床・硬化面は検出されなかつた。壁周溝：検出されなかつた。柱穴：検出されなかつたが、北東コーナー付近でピットが1基（P₁）検出されている。規模は 40×38 cm・深さ 28cm である。カマド：東壁南寄りに位置。芯材に河原石を使用し、粘質土を用いて構築されている。支脚が燃焼部中央からやや北寄りの位置で検出された。灰の堆積は第10層で確認された。貯蔵穴：不明 遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から土師器片が数点出土している。遺物：土師器坏片・甕片が出土している。時期：出土遺物が少なく断定できないが7世紀後半の可能性が考えられる。

H-8号住居跡（遺構：Fig.13・14、PL. 4 / 遺物：Fig.29、PL. 8）

位置：X 15 Y 28～X 16 Y 28 グリッド 検出状態：B-1号掘立柱建物跡、倒木痕と重複し、本遺構が最も新しい。平面形態：隅丸長方形と想定される。規模： 4.53×2.92 m 主軸方位：N-51°-E 残存深度：45cm 床面の状態：カマド周辺が硬化していた。やや起伏が見られる。壁周溝：検出されなかつた。柱穴：検出されなかつたが、北東コーナー（P₁）及び、南東コーナー（P₂）でそれぞれピットが検出されている。規模は P₁ が 58×50 cm・深さ 10cm、P₂ が 48×34 cm・深さ 18cm である。カマド：東壁南寄りに位置。第4層に灰の堆積が確認された。また、住居内にはカマドの構築材と考えられる焼土・炭化物を多く含んだ白色粘質土が大量に検出された。貯蔵穴：検出されなかつた。遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：埋没土中から土師器片・須恵器片が大量に出土している。遺物：土師器坏片・甕片・須恵器坏4点以上・塊3点以上・甕片・刀子片1点が出土している。時期：9世紀前半

H-9号住居跡（遺構：Fig.6・7、PL. 3 / 遺物：Fig.30、PL. 8）

位置：X 14 Y 25～X 15 Y 25 グリッド 検出状態：H-2号住、W-1号溝と重複する。H-2号住より古く、W-1号溝より新しい。平面形態：不明。W-1号溝と重複しているため、プランを明瞭に確認することができなかつた。規模：東西 3.52 m 主軸方位：N-56°-E 残存深度：11 cm 床面の状態：平坦で、カマド周辺では貼り床が検出された。壁周溝：検出されなかつた。柱穴：検出されなかつた。カマド：東壁に付設されていた。河原石を芯材とし、粘質土を用いて構築されていたと考えられる。灰の堆積は第2層で確認された。また、カマド周辺からはH-5号住と同様、人頭大の礫が多く検出されており、礫直下では土師器甕が礫により潰された状態で出土している。貯蔵穴：不明 施設：貼り床下から規模 50×48 cm・深さ 6 cm の土坑が1基検出された。埋没土には、カマドを構築していたと考えられる白色粘質土ブロックが混入していた。遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：カマド周辺に遺物が集中していた。遺物：土師器坏片・甕2点以上・須恵器坏片・甕片が出土している。時期：9世紀前半

H-10号住居跡（遺構：Fig.14、PL. 4 / 遺物：Fig.31、PL. 8）

位置：X 15 Y 24～X 16 Y 25 グリッド 検出状態：W-1号溝と重複し、本遺構が新しい。北東コーナー及びカマドの一部は調査区外に及ぶ。平面形態：隅丸長方形と想定される。規模： 3.58×2.64 m 主軸方位：不明 残存深度：24cm 床面の状態：平坦で、住居跡中央では硬化面が検出された。壁周溝：検出されなかつた。

柱穴：検出されなかった。カマド：東壁中央に位置していたと考えられる。遺存状態は不良。灰の堆積は第2層で確認された。**貯蔵穴**：検出されなかった。遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：南東コーナー付近で須恵器皿が良好な状態で出土している。**遺物**：土師器片・甕片・須恵器片・皿・灰釉陶器片、土錐1点が出土している。**時期**：9世紀後半

H-11号住居跡

位置：X 15 Y 24 グリッド **検出状態**：遺存状態が悪く、貼り床の一部を検出するにとどまった。また、W-1号溝と重複し、本遺構が新しい。**平面形態**：不明 **規模**：不明 **主軸方位**：不明 **残存深度**：不明 **床面の状態**：貼り床が検出された。**壁周溝**：不明 **柱穴**：不明 **カマド**：不明 **貯蔵穴**：不明 **遺構埋没状態**：不明 **遺物出土状態**：遺物は出土しなかった。**時期**：不明

H-12号住居跡（遺構：Fig. 15、PL. 4 / 遺物：Fig. 32、PL. 8）

位置：X 19 Y 28～X 20 Y 29 グリッド **検出状態**：W-3・4号溝と重複し、本遺構が古い。また、南東コーナーはW-3号溝によって削平されており、東壁及びカマドは調査区外に及ぶ。本遺構は拡張された住居跡と考えられ、拡張後を12a号住、拡張前を12b号住と呼称する。**平面形態**：不明 **規模**：12a号住は南北5.1m、12b号住は南北3.5m。**主軸方位**：不明 **残存深度**：12a号住は26cm、12b号住は44cm。**床面の状態**：12a号住は、ほぼ平坦で南側が硬化していた。12b号住はやや凹凸がみられ、貼り床・硬化面は検出されなかつた。**壁周溝**：検出されなかつた。**柱穴**：検出されなかつたが、12b号住で規模40×32cm・深さ12cmのピット（P₁）が1基検出されている。**カマド**：東壁南寄りに位置する。12a号住の床面下から検出されていることから、カマドは12b号住に伴うものと考えられる。地山を掘り残して袖を形成していた。灰の堆積は第2層で確認された。**貯蔵穴**：検出されなかつた。遺構埋没状態：12a号住については自然埋没、12b号住は人為埋没と考えられる。**遺物出土状態**：埋没土中及び、床直上から土師器片、須恵器片が出土している。**遺物**：土師器片2点以上・甕片・須恵器片・甕片、不明鉄製品が出土している。**時期**：9世紀代

H-13号住居跡（遺構：Fig. 16、PL. 4 / 遺物：Fig. 33、PL. 8）

位置：X 20 Y 29～X 21 Y 30 グリッド **検出状態**：W-3・4号溝と重複し、本遺構が古い。北壁はW-3号溝によって削平されており、東壁及びカマドは調査区外に及ぶ。**平面形態**：不明 **規模**：不明 **主軸方位**：不明 **残存深度**：23cm **床面の状態**：ほぼ平坦で、南壁付近で貼り床が検出された。**壁周溝**：西壁から南壁にかけて検出された。**柱穴**：検出されなかつたが、ピットを2基検出している。規模はP₁が40×39cm・深さ33cm、P₂が30×30cm・深さ21cmである。**カマド**：不明 **貯蔵穴**：検出されなかつた。遺構埋没状態：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中及び、床直上から土師器片、須恵器片が出土している。**遺物**：土師器片3点以上・甕片・須恵器片・甕片・硬5点が出土している。**時期**：9世紀代

H-14号住居跡（遺構：Fig. 10・11、PL. 3 / 遺物：Fig. 34、PL. 8・9）

位置：X 17 Y 29～X 18 Y 30 グリッド **検出状態**：H-4・20号住、W-7号溝と重複し、H-4号住より新しく、H-20号住、W-7号溝より古い。**平面形態**：不明 **規模**：東西3.12m **主軸方位**：N-75°-E **残存深度**：35cm **床面の状態**：貼り床が一部検出された。**壁周溝**：検出されなかつた。**柱穴**：検出されなかつた。**カマド**：東壁に付設。遺存状態が悪く、焼土及び、構築材と考えられる粘質土がわずかに堆積

していた。また、第5層に灰の堆積が確認された。**貯蔵穴**：カマドに向かって右側に規模 $48 \times 32\text{cm}$ ・深さ 17cm の土坑が検出された。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中から多く出土する。**遺物**：土師器杯3点以上・甕片・須恵器蓋片・皿2点・壺3点以上・塊3点以上・甕片・刀子1点・鍬5点が出土している。**時期**：9世紀中頃～後半

H-15号住居跡（遺構：Fig. 9・10、PL. 3 / 遺物：Fig. 35、PL. 9）

位置：X 19 Y 30 グリッド 検出状態：H-3号住、W-3・4号溝と重複し、本遺構が最も古い。削平が著しく、東壁とカマドのみ検出された。平面形態：不明 規模：不明 主軸方位：N- 63° -E 残存深度：20 cm 床面の状態：平坦で、カマド周辺は硬化していた。壁周溝：検出されなかった。柱穴：不明 カマド：東壁に付設。第10層に灰の堆積が確認された。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中から多く出土する。また、カマド内からは、火打金と火打石と考えられる石英のほか、骨片が出土した。**遺物**：土師器杯3点以上・甕片・須恵器杯3点以上・皿2点・塊3点以上・蓋片・甕片・火打金・火打石・骨片が出土している。**時期**：8世紀代か。

H-16号住居跡（遺構：Fig. 17、PL. 5 / 遺物：Fig. 37、PL. 9・10）

位置：X 19 Y 31～X 20 Y 31 グリッド 検出状態：H-17号住、W-3・6号溝と重複し、H-17号住より新しく、他より古い。北壁はW-3号溝により削平されており、西壁は調査区外に及ぶ。平面形態：不明 規模：不明 主軸方位：不明 残存深度：29 cm 床面の状態：ほぼ平坦で、貼り床が検出された。壁周溝：検出されなかった。柱穴：不明 カマド：東壁に付設。W-6号溝との重複により、遺存状態は極めて悪い。**貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：床面から、須恵器台付塊が出土している。**遺物**：土師器杯7点以上・甕1点以上・須恵器蓋片・台付塊1点・甕片が出土している。**時期**：7世紀後半

H-17号住居跡（遺構：Fig. 17、PL. 5 / 遺物：Fig. 38、PL. 10）

位置：X 19 Y 31～X 20 Y 32 グリッド 検出状態：北東コーナーから東壁及びカマドを検出した。その他は調査区外に及ぶ。また、H-16号住、W-5号溝と重複し、本遺構が最も古い。平面形態：不明 規模：不明 主軸方位：N- 63° -E 残存深度：47 cm 床面の状態：やや凹凸が見られる。貼り床・硬化面は検出されなかった。壁周溝：検出されなかった。柱穴：不明 カマド：東壁に付設され、粘質土で構築されていた。第30層に灰の堆積が確認された。**貯蔵穴**：不明 **遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：埋没土中から土師器杯、須恵器片が出土している。**遺物**：土師器杯6点以上・皿片・甕4点以上・須恵器蓋片が出土している。**時期**：7世紀後半

H-18号住居跡（遺構：Fig. 16、PL. 5 / 遺物：Fig. 39、PL. 10）

位置：X 22 Y 33～X 22 Y 34 グリッド 検出状態：H-19号住、W-9・10号溝と重複し、H-19号住より新しく、W-9・10号溝より古い。平面形態：不明 規模：東西 2.48 m 主軸方位：不明 残存深度：26 cm 床面の状態：ほぼ平坦で、硬化面が検出された。壁周溝：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。カマド：不明 **貯蔵穴**：検出されなかった。**遺構埋没状態**：自然埋没と想定される。**遺物出土状態**：北東コーナー付近にやや集中して出土した。**遺物**：土師器杯3点以上・甕片・須恵器蓋片・坏片・甕片・鍬4点が出

土している。時期：8世紀後半

H-19号住居跡（遺構：Fig. 16、PL. 5 / 遺物：Fig. 40、PL. 10）

位置：X 22 Y 34～X 23 Y 34 グリッド 検出状態：西壁と北壁の一部を検出するのみで他は調査区外に及ぶ。また、H-18号住と重複し、本遺構が古い。平面形態：不明 規模：不明 主軸方位：不明 残存深度：49cm 床面の状態：ほぼ平坦だが、貼り床・硬化面は検出されなかった。壁周溝：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。カマド：不明 貯蔵穴：不明 遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：床面から、土師器壺が逆位で出土している。遺物：土師器壺1点以上、須恵器壺1点が出土している。時期：9世紀後半

H-20号住居跡（遺構：Fig. 10、PL. 5 / 遺物：Fig. 41、PL. 10）

位置：X 18 Y 29～X 18 Y 30 グリッド 検出状態：東壁・北壁の一部を検出したのみで、南壁はH-3号住により削平され、他は調査区外に及ぶ。H-3・4・14号住、W-4号溝と重複し、H-3号住・W-4号溝より古く、H-4・14号住より新しい。平面形態：不明 規模：不明 主軸方位：不明 残存深度：30cm 床面の状態：ほぼ平坦で、貼り床が検出された。壁周溝：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。カマド：不明 貯蔵穴：不明 遺構埋没状態：自然埋没と想定される。遺物出土状態：北壁側から出土している。遺物：土師器壺片、須恵器蓋片・甕1点、磨石3点が出土している。時期：切り合い関係から9世紀後半か。

2. 遺物集中遺構

1号遺物集中遺構（遺構：Fig. 18、PL. 6 / 遺物：Fig. 42、PL. 11）

位置：X 21 Y 32～X 22 Y 32 グリッド 検出状態：W-2号溝と重複し、本遺構が新しい。平面形態：不明 規模：不明 残存深度：21cm 遺構埋没状態：人為埋没と考えられる。浅間C軽石・ロームブロックを含んだ暗褐色土を基調とする。遺物出土状態：2層に分かれて大量の土師器が出土した。出土遺物：下層一土師器壺48点以上、小型甕1点、台付甕台部2点、甕片、須恵器蓋片・甕片。上層一土師器壺21点以上、甕片、須恵器蓋片・壺片・高壺片・瓶片・甕片、層位不明一土師器壺30点以上、甕片、須恵器蓋片・塊片・鉢片・甕片、疊41点（薦編石と思われる細長いもの14点・磨石7点・被熱したもの1点）時期：8世紀前半 備考：遺物の出土状況から何らかの祭祀跡の可能性が考えられる。土器を投棄する行為は遺物の出土した層位から少なくとも2回（上層・下層）に分けられる。また、上層と下層の遺物に顕著な時期差は見られない。なお、この投棄行為はW-2号溝が埋没した後に行われている。

3. 挖立柱建物跡

B-1号掘立柱建物跡（遺構：Fig. 19、PL. 5）

位置：X 15 Y 28～X 18 Y 28 グリッド 検出状態：H-5・8号住と重複し、本遺構が最も古い。規模：桁行3間（6.89～7.0m）×梁行3間（5.08～5.25m）長軸方位：N-51°-E 各柱穴の規模（長軸×短軸×深さ、単位cm）：P₁（70×44×31）、P₂（54×44×41）、P₃（50×38×44）、P₄（90×58×68）、P₅（50×50×58）、P₆（61×60×63）、P₇（56×48×72）、P₈（62×64×65）、P₉（44×40×50）、P₁₀（61×40×17）、P₁₁（深さ19）、P₁₂（56×40×65）、P₁₃（60×56×51）、P₁₄（58×50×40）、P₁₅（42×41×30）、P₁₆（53×46×44）。遺構埋没状態：ロームブロック・白色軽石を

含んだ黒褐色土を基調とする。遺物出土状態：埋没土中より出土する。出土遺物：土師器片、小片。時期：後述するW-1・2号溝と軸方向が近似することなどから、両溝と同時期（7世紀後半）の可能性が考えられる。備考：断面観察において、P 4～8・13・14で柱の痕跡が確認された。

4. 井戸

I-1号井戸（遺構：Fig. 18, PL. 6 / 遺物：Fig. 43, PL. 11・12）

位置：X 16 Y 25～X 17 Y 26 グリッド 検出状態：重複はないが、一部試掘トレンチにより削平される。30～40cmほどの比較的大きさのそろった河原石を乱石積みした石組み井戸で、一周り広い掘り方を持つ。平面形態：石組み部分は円形、掘り方は不整形 規模：石組み部分の石を含めた外径約2.0×1.95m、内径上部1.20×1.20m、内径下部推定0.5×0.5m、掘り方3.16×3.04m 残存深度：推定約2.5m 遺構埋没状態：明確に確認することができなかった。遺物出土状態：埋没土上層から須恵器塊が出土している。出土遺物：土師器片・甕片・須恵器片1点・塊3点以上・甕片・縁1点・木材（井戸枠）が出土している。時期：9世紀後半 備考：重機による断ち割り調査を実施した。検出面から約1.2mが石組、底部に長さ67cmの井戸枠という構造で、両間は地山となっていた。井戸枠は方形組版組であるが、十全な記録が残せなかった。内径下部径・残存深度については断ち割り調査を行った際の計測値である。

I-2号井戸（遺構：Fig. 18, PL. 6 / 遺物：Fig. 44, PL. 11）

位置：X 21 Y 31～X 22 Y 32 グリッド 検出状態：重複はない。素堀りの井戸で周囲に一周り広い掘り方を持つ。平面形態：梢円形 規模：上部径1.40×1.18m、下部径推定0.37×0.33m、掘り方3.24×2.68m 残存深度：推定約2.7m 遺構埋没状態：人為埋没 遺物出土状態：埋没土中から土師器・須恵器が出土している。出土遺物：土師器片・台付甕片・甕片・須恵器蓋片・皿1点・塊2点以上・甕片が出土している。時期：9世紀後半 備考：重機による断ち割り調査を実施した。内径下部・残存深度については断ち割り調査を行った際の計測値である。

5. 土坑（遺構：Fig. 20, Tab. 1 / 遺物：Fig. 45, PL. 12）

土坑は25基検出されている。出土遺物はD-1～8・10～12・17号土坑で土師器・須恵器小片が、また、D-8号土坑からは石製紡錘車が1点埋没土上層から出土している。なお、土坑として扱つたものの中にはB-1号掘立柱建物跡と同規模の柱穴と考えられるもの（D-2・15）や、断面観察において柱痕が認められたもの（D-4・5・6・14・15・17）が含まれている。各土坑の計測値はTab. 1に示すとおりである。

6. ピット（遺構：Fig. 20, Tab. 2）

ピットは82基が検出されている。検出されたピットの多くは小規模なものであり、掘立柱建物跡などの配列を確認するには至らなかった。遺物は土師器・須恵器小片が出土している。各ピットの計測値はTab. 2に示すとおりである。

Tab. 1 土坑一覧表

番号	位置	規模 (m)	深さ (cm)	備考
D-1	X 17 Y 29	1.17 × 1.02	14.0	土師器小片、須恵器小片出土。
D-2	X 17 Y 28	1.06 × 0.79	68.0	土師器小片出土。
D-3	X 18 Y 27	0.77 × 0.50	32.0	土師器小片出土。
D-4	X 18 Y 27	0.56 × 0.51	38.0	土師器小片、須恵器小片出土。
D-5	X 18 Y 27	— × 0.88	58.0	土師器小片出土。
D-6	X 15 Y 27	0.91 × 0.78	39.0	土師器小片出土。
D-7	X 15 Y 27	0.46 × 0.45	15.0	土師器小片・便器出土。土師器小片、須恵器小片・石臼跡跡出土。
D-8	X 17 Y 25	1.31 × 0.95	45.0	—
D-9	X 16 Y 24	— × 0.65	7.0	—
D-10	X 15 Y 26	0.57 × 0.53	0.56	土師器小片出土。
D-11	X 16 Y 27	1.26 × 0.90	0.23	土師器小片出土。
D-12	X 19 Y 28	1.25 × 0.84	0.40	土師器环片、須恵器环片・便器出土。

Tab. 2 ピット一覧表

番号	グリッド	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P 1	X 14 Y 26	43.0 × 43.0	21.0	土師器环片出土。
P 2	X 14 Y 26	40.0 × 38.0	47.0	土師器小片出土。
P 3	矢番	—	—	—
P 4	X 15 Y 27	48.0 × 43.0	36.0	土師器小片、須恵器小片出土。
P 5	X 15 Y 26	38.0 × 33.0	20.0	土師器小片出土。
P 6	X 15 Y 26	37.0 × 30.0	20.0	土師器小片出土。
P 7	X 16 Y 26	57.0 × 50.0	14.0	土師器小片出土。
P 8	X 22 Y 30	50.0 × 48.0	29.0	—
P 9	X 17 Y 29	78.0 × 74.0	43.0	土師器小片、須恵器便器片出土。
P 10	X 19 Y 28	50.0 × 44.0	53.0	—
P 11	矢番	—	—	—
P 12	X 16 Y 26	28.0 × 24.0	28.0	土師器环片・小片出土。
P 13	X 15 Y 26	62.0 × 38.0	29.0	—
P 14	X 15 Y 26	24.0 × 23.0	8.0	—
P 15	X 15 Y 26	41.0 × 37.0	26.0	須恵器便器片出土。
P 16	X 16 Y 26	54.0 × 50.0	44.0	土師器环片出土。
P 17	X 16 Y 26	34.0 × 33.0	22.0	土師器小片出土。
P 18	X 15 Y 26	36.0 × 25.0	6.0	—
P 19	X 16 Y 26	40.0 × 26.0	22.0	土師器小片出土。
P 20	X 15 Y 27	140.0 × 42.0	26.0	土師器小片出土。
P 21	X 16 Y 26	74.0 × 42.0	40.0	土師器小片出土。
P 22	X 16 Y 26	52.0 × 42.0	40.0	土師器小片、須恵器便器片・磨石1点出土。
P 23	X 15 Y 27	28.0 × 24.0	22.0	—
P 24	X 15 Y 27	23.0 × 21.0	17.0	—
P 25	X 17 Y 28	80.0 × 63.0	30.0	—
P 26	X 17 Y 28	42.0 × —	22.0	—
P 27	X 18 Y 28	32.0 × 30.0	26.0	—
P 28	X 18 Y 28	45.0 × 36.0	33.0	須恵器便器片出土。
P 29	X 18 Y 27	38.0 × 32.0	28.0	—
P 30	X 19 Y 27	34.0 × 31.0	26.0	須恵器便器片出土。
P 31	X 18 Y 28	23.0 × —	9.0	—
P 32	X 18 Y 28	53.0 × 43.0	37.0	—
P 33	X 16 Y 25	45.0 × 30.0	30.0	土師器环片出土。
P 34	X 17 Y 25	63.0 × —	30.0	土師器小片、須恵器便器片出土。
P 35	X 18 Y 27	58.0 × 35.0	24.0	—
P 36	X 18 Y 29	41.0 × 37.0	29.0	土師器小片出土。
P 37	X 19 Y 28	59.0 × —	43.0	—
P 38	X 19 Y 28	32.0 × 24.0	28.0	土師器小片出土。
P 39	矢番	—	—	—
P 40	X 18 Y 28	47.0 × 47.0	15.0	土師器小片出土。
P 41	X 18 Y 27	38.0 × 36.0	25.0	土師器小片、須恵器便器片出土。
P 42	X 16 Y 26	35.0 × 31.0	34.0	—

番号	位置	規模 (m)	深さ (cm)	備考
D-13	X 17 Y 29	1.37 × 1.22	33.0	—
D-14	X 15 Y 26	0.63 × 0.53	64.0	—
D-15	X 20 Y 29	0.98 × 0.83	72.0	—
D-16	X 21 Y 29	0.83 × 0.78	32.0	—
D-17	X 21 Y 29	1.36 × 0.82	42.0	土師器小片出土。
D-18	X 17 Y 29	— × 0.69	40.0	—
D-19	X 18 Y 28	0.66 × 0.60	46.0	—
D-20	X 16 Y 27	0.64 × 0.58	33.0	—
D-21	X 15 Y 27	— × 0.43	29.0	—
D-22	X 18 Y 29	0.67 × 0.63	68.0	—
D-23	X 17 Y 29	— × 0.54	18.0	—
D-24	X 21 Y 30	0.63 × 0.63	8.0	—
D-25	X 21 Y 32	0.63 × 0.56	30.0	—

番号	グリッド	規模 (cm)	深さ (cm)	備考
P 43	X 15 Y 27	35.0 × 32.0	17.0	—
P 44	X 15 Y 27	33.0 × 27.0	21.0	—
P 45	X 15 Y 27	28.0 × 25.0	22.0	—
P 46	X 15 Y 27	34.0 × 32.0	16.0	—
P 47	X 15 Y 27	40.0 × 37.0	31.0	—
P 49	X 16 Y 25	30.0 × 28.0	30.0	—
P 50	X 16 Y 25	30.0 × 26.0	27.0	—
P 51	X 17 Y 29	38.0 × —	27.0	土師器杯1点、須恵器瓶片出土。
P 52	X 19 Y 27	34.0 × 34.0	27.0	須恵器小片出土。
P 53	X 19 Y 27	50.0 × 33.0	27.0	土師器小片出土。
P 54	X 18 Y 27	60.0 × —	39.0	土師器便器片、炭化材1点出土。
P 55	X 18 Y 26	87.0 × 70.0	31.0	土師器小片、須恵器瓶片1点出土。
P 56	X 16 Y 26	45.0 × 43.0	53.0	—
P 57	X 18 Y 28	56.0 × 54.0	40.0	土師器环片、須恵器瓶片1点出土。
P 58	X 18 Y 28	52.0 × —	37.0	—
P 59	X 16 Y 25	38.0 × 34.0	15.0	—
P 60	X 15 Y 27	32.0 × 27.0	29.0	—
P 61	X 17 Y 28	30.0 × 28.0	27.0	—
P 62	X 17 Y 28	58.0 × —	56.0	—
P 63	X 16 Y 29	73.0 × 67.0	33.0	—
P 64	X 15 Y 29	47.0 × 41.0	39.0	—
P 65	X 16 Y 29	49.0 × 47.0	37.0	—
P 66	X 17 Y 29	54.0 × 41.0	44.0	—
P 67	X 16 Y 28	39.0 × 35.0	93.0	—
P 68	X 16 Y 28	80.0 × —	30.0	—
P 69	X 17 Y 28	83.0 × 62.0	76.0	—
P 70	X 17 Y 28	52.0 × —	22.0	—
P 71	X 17 Y 28	58.0 × —	6.0	—
P 72	X 18 Y 27	48.0 × 36.0	39.0	—
P 73	X 18 Y 27	40.0 × —	11.0	—
P 74	X 18 Y 27	34.0 × 30.0	16.0	—
P 75	X 18 Y 28	30.0 × 27.0	12.0	—
P 76	X 19 Y 28	44.0 × 42.0	21.0	—
P 77	X 18 Y 28	36.0 × 34.0	34.0	—
P 78	X 18 Y 28	29.0 × 26.0	19.0	—
P 79	X 18 Y 28	60.0 × 50.0	60.0	—
P 80	X 18 Y 28	68.0 × —	35.0	—
P 81	X 17 Y 30	40.0 × —	10.0	—
P 82	X 20 Y 32	44.0 × 40.0	19.0	—
P 83	X 21 Y 33	—	10.0	—
P 84	X 21 Y 33	41.0 × 40.0	12.0	—
P 85	X 21 Y 33	48.0 × 32.0	31.0	—

7. 溝

W-1号溝（遺構：Fig. 21、PL. 6 / 遺物：Fig. 47、PL. 12）

位置：X 12 Y 26～X 16 Y 24 グリッド 検出状態：H-9・10・11号住と重複し、本遺構が最も古い。走行方向：北東～南西。底面の標高は北東端 86.08 m、南西端 86.01 m。断面形態：逆台形 規模：上端幅 2.76～2.80 m、下端幅 1.96～2.24 m 残存深度：50cm 遺構埋没状態：自然埋没 遺物出土状態：埋没土中から土師器片、須恵器片が大量に出土した。また、底面付近に散在して須恵器甕が1個体分出土している。出土遺物：土師器坏8点以上・甕3点以上、須恵器蓋片・瓶片・甕1点以上、羽口1点、鉄滓1点、礫11点 時期：7世紀後半
備考：調査区を南西方向に拡幅したところ、さらに南西に延びることが確認された。

W-2号溝（遺構：Fig. 31、PL. 6 / 遺物：Fig. 48・49、PL. 13）

位置：X 21 Y 33～X 24 Y 32 グリッド 検出状態：1号遺物集中遺構、W-9・10号溝と重複し、本遺構が最も古い。走行方向：北東～南西。底面の標高は北東端 85.93 m、南西端 85.98 m。断面形態：逆台形 規模：上端幅 2.56～2.72 m、下端幅 1.98～2.26 m 残存深度：51cm 遺構埋没状態：自然埋没 遺物出土状態：埋没土中から土師器片、須恵器片が大量に出土した。出土遺物：土師器坏10点以上・甕2点以上、須恵器蓋片・高坏片・瓶片・甕片・円筒埴輪片・礫13点 時期：7世紀後半 備考：調査区を北東方向に拡幅したところ、北東に約3mのところで途切れることを確認した。

W-3・4号溝

位置：X 18 Y 30～X 21 Y 29 グリッド 検出状態：両溝とも重複する遺構の中で最も新しい。また、走行方向が一致し並走することから道路状遺構の可能性も想定されたが両溝間に硬化面は検出されなかった。走行方向：北東～南西。以下、計測値はW-3・4の順で記載する。底面の標高は北東端 86.08 m・86.30 m、南西端 86.80 m・86.31 m。断面形態：両溝とも皿状。規模：上端幅 1.20～1.68 m・0.8～1.36 m、下端幅 1.98～2.26 m・0.16～0.44 m 残存深度：50cm・28cm 遺構埋没状態：自然埋没。埋没土はA s-B 軽石を大量に含む。遺物出土状態：両溝とも埋没土中から多く出土したが、明確に時期を示す遺物は出土しなかった。出土遺物：土師器坏片・甕片・須恵器塊片・甕片・灰釉陶器片・鉄滓1点、礫4点 時期：不明

W-5号溝

位置：X 17 Y 25～X 20 Y 32 グリッド 検出状態：D-15号土坑、W-3・4・6・7号溝と重複し、D-15号土坑、W-3・4・6号溝より古く、W-7号溝は同時期の可能性がある。走行方向：北～南。底面の標高は北端 86.59 m、南端 86.31 m。断面形態：U字形 規模：上端幅 0.4～0.76 m、下端幅 0.08～0.52 m 残存深度：23cm 遺構埋没状態：自然埋没 遺物出土状態：埋没土中から土師器片、須恵器片が出土している。出土遺物：土師器坏片・甕片・須恵器塊片・瓶片・甕片 時期：不明 備考：調査区のほぼ中央で直交するW-7号溝と埋没土が類似することから、両溝は区画を目的として同時に機能していた可能性が高い。

W-6号溝

位置：X 20 Y 30～X 21 Y 30 グリッド 検出状態：H-13・16号住、W-5号溝と重複し、本遺構が最も新しい。走行方向：北東～南西。底面の標高は北東端 86.39 m、南西端 86.42 m。断面形態：浅い逆台形 規模：上端幅 0.44～0.66 m、下端幅 0.28～0.44 m 残存深度：14cm 遺構埋没状態：ロームブロック・A s-B

軽石を含んだ黒褐色土が堆積する。遺物出土状態：遺物は出土しなかった。時期：不明

W-7号溝（遺物：Fig. 51、PL. 13）

位置：X 17 Y 29～X 19 Y 29 グリッド 検出状態：H-4・14号住、D-18号土坑、W-5号溝と重複する。H-4・14号住、D-18号土坑より新しく、W-5号溝は同時期の可能性がある。走行方向：西～東。底面の標高は西端 86.25 m、東端 86.20 m。断面形態：逆台形 規模：上端幅 0.74～1.02 m、下端幅 0.26～0.58 m 残存深度：45cm 遺構埋没状態：自然埋没。遺物出土状態：明確に時期を示す遺物は出土しなかった。出土遺物：土師器小片、須恵器小片、土錐2点 時期：不明

W-8号溝

位置：X 23 Y 33～X 24 Y 33 グリッド 検出状態：遺構の重複はないが、西側を試掘トレンチにより削平される。また、試掘トレンチより西では検出されなかった。走行方向：東～西。底面の標高は 86.11～86.12 m ではほぼ水平。断面形態：逆台形 規模：上端幅 0.64～0.76 m、下端幅 0.22～0.42 m 残存深度：34cm 遺構埋没状態：自然埋没 遺物出土状態：わずかに出土する。出土遺物：土師器小片 時期：不明

W-9・10・14号溝

位置：X 22 Y 33～X 23 Y 34 グリッド 検出状態：W-9・10号溝はH-18号住、W-2号溝と重複し、W-9・10号溝のほうが新しい。W-14号溝は南東部が調査区外に延びる。この3条の溝は、走行方向が一致し、埋没土・遺構形態が類似する。走行方向：北西～南東。以下、計測値はW-9・10・14の順で記載する。底面の標高は 86.23～86.33 m・86.20 m・86.06～86.13 m でそれぞれ、ほぼ水平である。断面形態：W-9・10号溝が浅い逆台形、W-14号溝は皿状。規模：上端幅 0.56～1.04 m・0.62 m・0.76～1.08 m、下端幅 0.40～0.76 m・0.32 m・0.40～0.66 m 残存深度：20cm・26cm・36cm 遺構埋没状態：白色軽石を含んだ黒褐色土が自然埋没する。遺物出土状態：W-9・14号溝は、埋没土中からわずかに出土する。なお、W-14号溝からは墨書き土器が1点出土している。出土遺物：土師器壺（墨書き）1点・小片、須恵器瓶片・甕片 時期：9世紀代か。

W-11・12・13号溝

位置：X 23 Y 32～X 24 Y 32 グリッド 検出状態：W-13号溝がW-8号溝と重複し、W-13号溝のほうが新しい。この3条の溝は近接し、走行方向・遺構形態・埋没土が酷似する。走行方向：北東～南西。以下、計測値はW-11・12・13の順で記載する。底面の標高は 86.25～86.27 m・86.34 m・86.35～86.37 m。断面形態：W-11・12は皿状、W-13は浅い逆台形 規模：上端幅 0.34～0.48 m・0.20～0.23 m・0.21～0.31 m、下端幅 0.16～0.26 m・0.08～0.13 m・0.08～0.18 m。残存深度：13cm・4cm・6cm 遺構埋没状態：A s-B 軽石を大量に含んだ土が埋没する。遺物出土状態：W-11・13号溝では埋没土中からわずかに出土している。出土遺物：土師器小片、須恵器甕片・小片 時期：不明 備考：歎跡の可能性が考えられる。

8. 遺構外出土遺物（遺物：Fig. 53、PL. 13）

遺構の検出には至らなかったが、縄文時代の遺物では加曾利E 3式土器の胴部破片、小形磨製石斧1点、打製石斧1点が出土している。

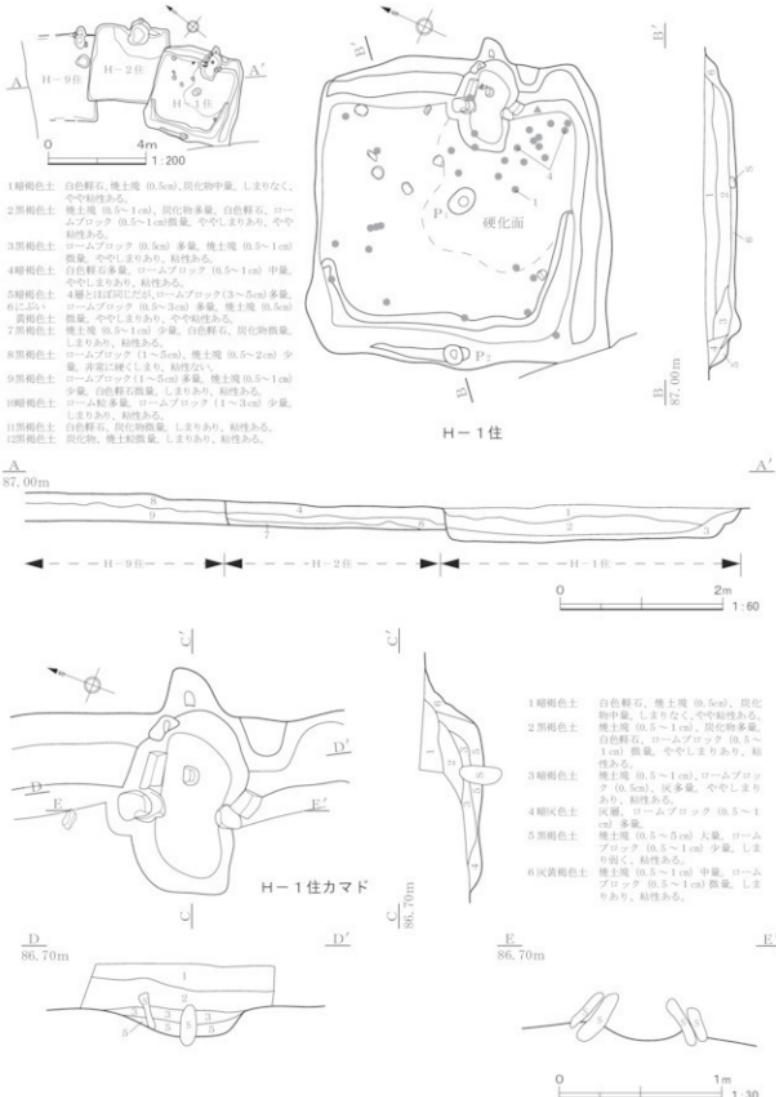


Fig. 5 H-1号住居跡

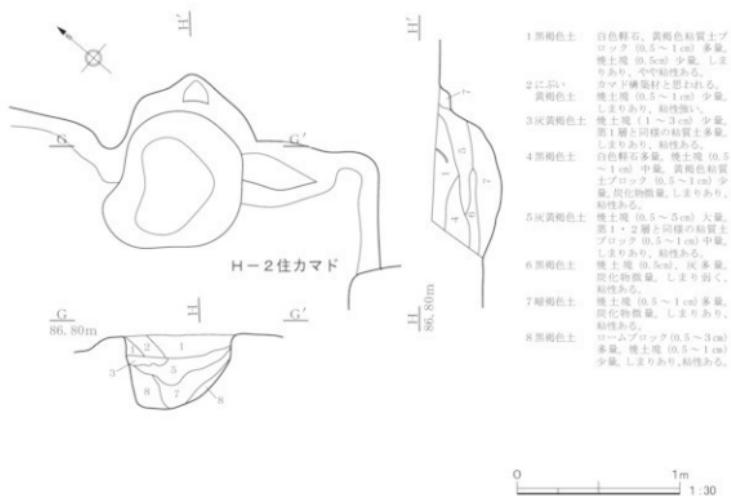
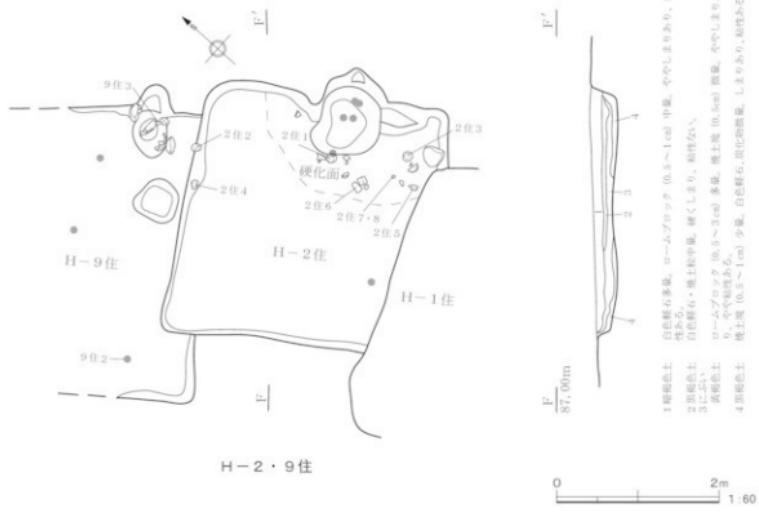


Fig. 6 H-2・9号住居跡、H-2号住居跡カマド

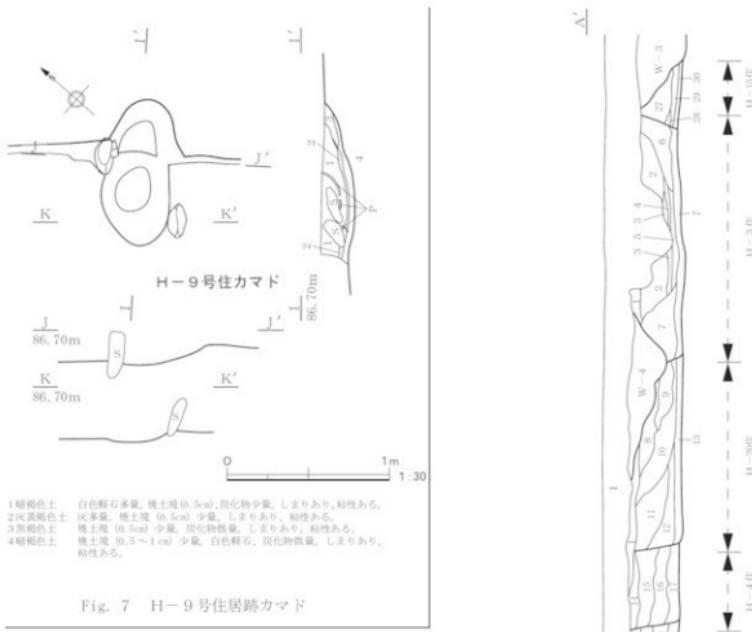


Fig. 7 H-9号住居跡カマド

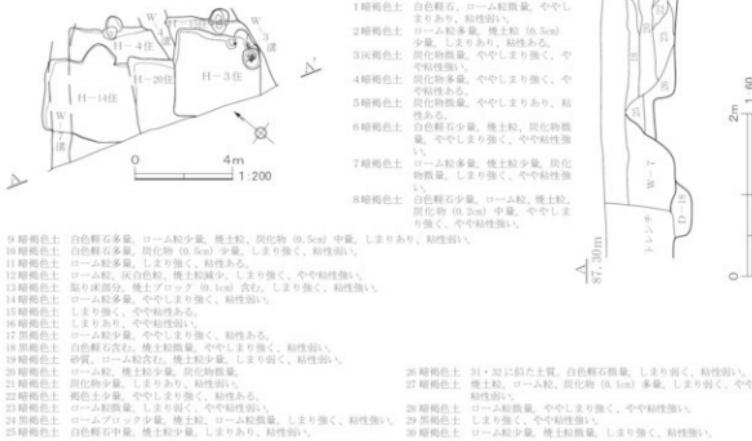


Fig. 8 H-3・14・20号住居跡セクション図

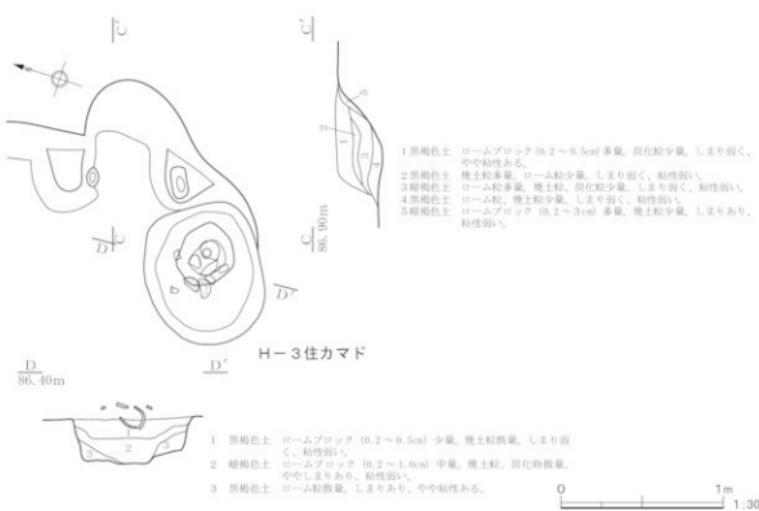
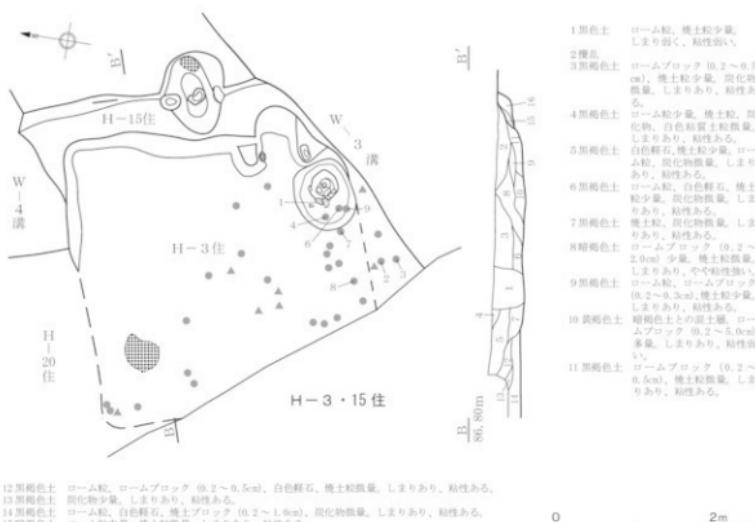


Fig. 9 H-3・15号住居跡、H-3号住居跡カマド

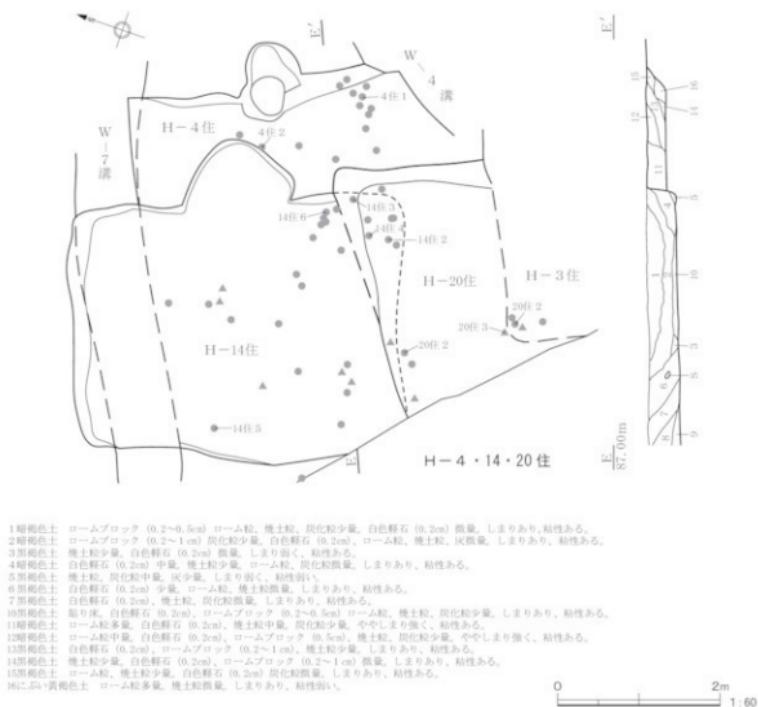
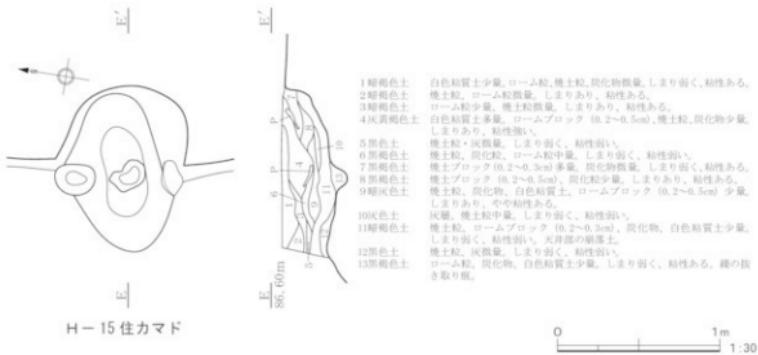


Fig.10 H-15号住居跡カマド、H-4・14・20号住居跡

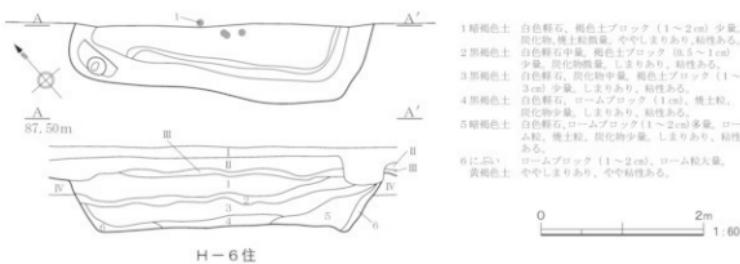
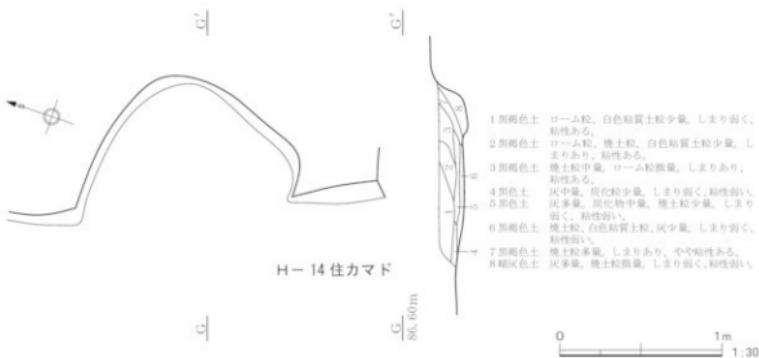
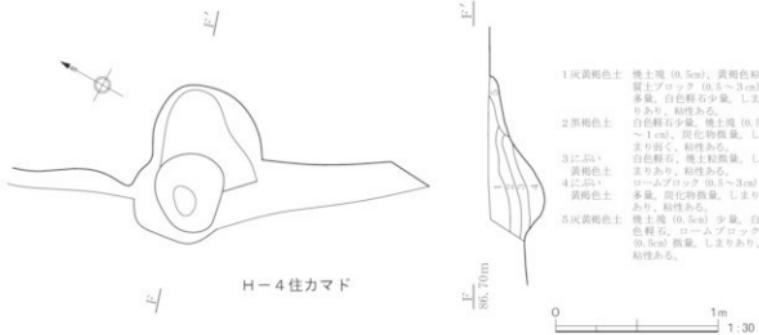
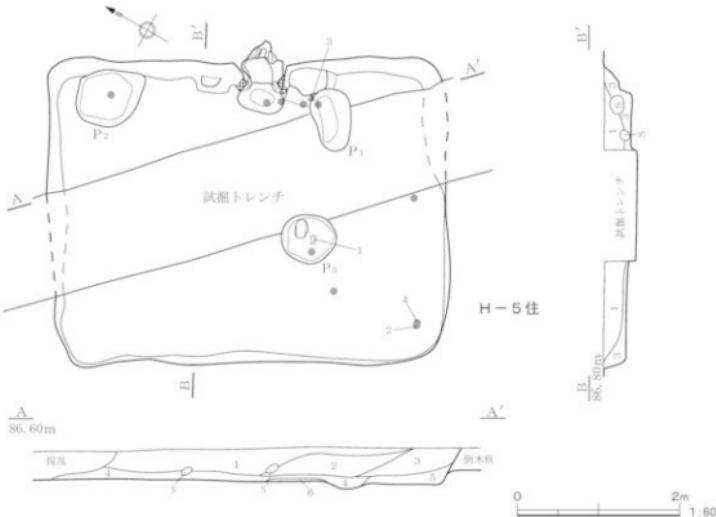


Fig. 11 H-4・14号住居跡カマド、H-6号住居跡



- 1褐色土 ロームブロック (1cm)、塊土塊少量。しまり弱く、やや粘性ある。
 2褐色土 塊土ブロック (0.5~1cm) 多量。ロームブロック (1~5cm) 中量。白色軽石少量。炭化物微量。しまり弱く、やや粘性ある。
 3にじみ ロームブロック (1~5cm) 多量。白色軽石少量。しまり弱く、やや粘性ある。
 黄褐色土
 黄褐色土 塊土塊。炭化物微量。しまり弱く、粘性ある。
 5にじみ ロームブロック (1~5cm) 多量。白色軽石微量。ややしまりあり、やや粘性ある。
 黄褐色土
 6暗褐色土 ロームブロック (1~3cm)、塊土塊少量。しまり弱く、粘性ある。

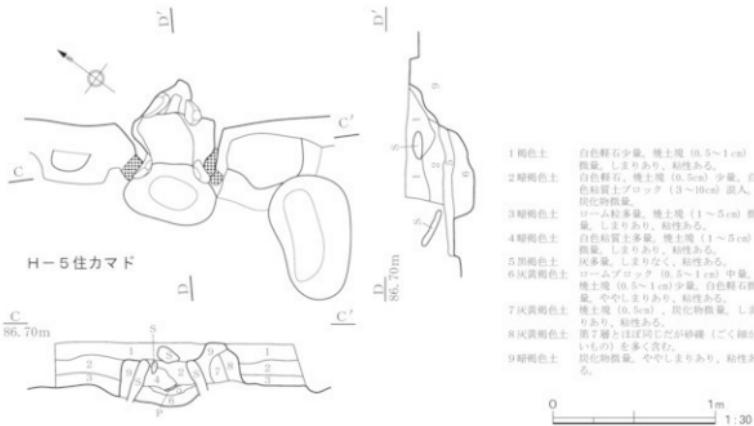


Fig. 12 H-5号住居跡

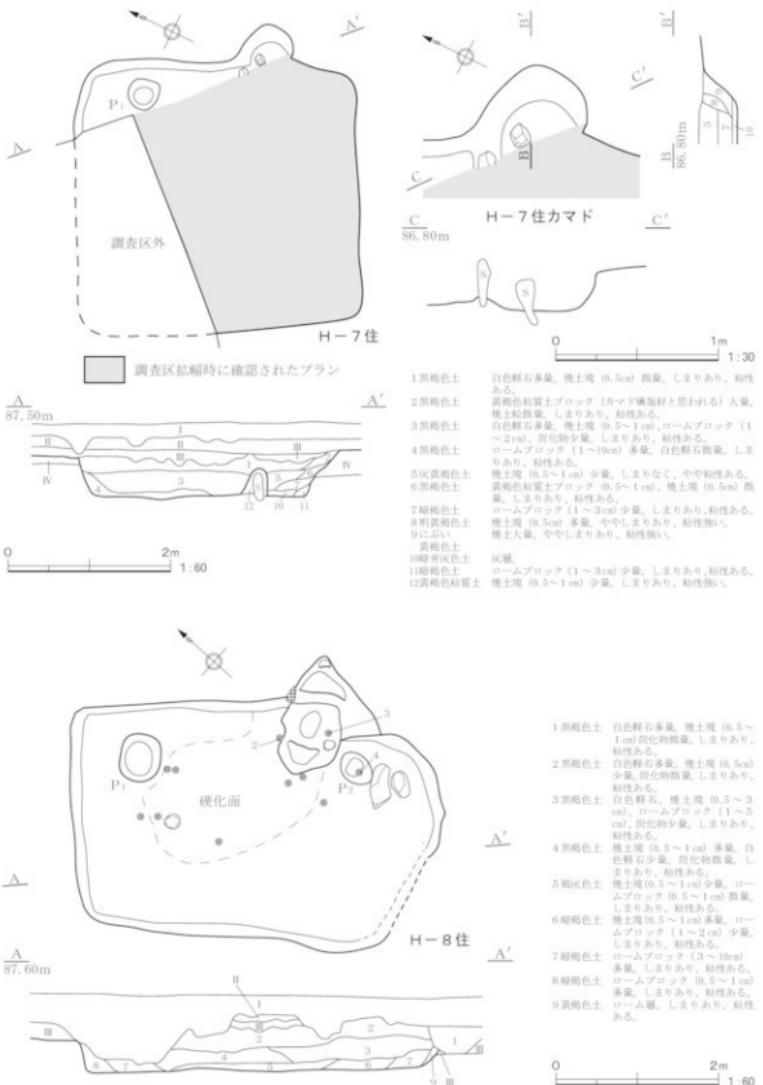


Fig. 13 H-7・8号住居跡

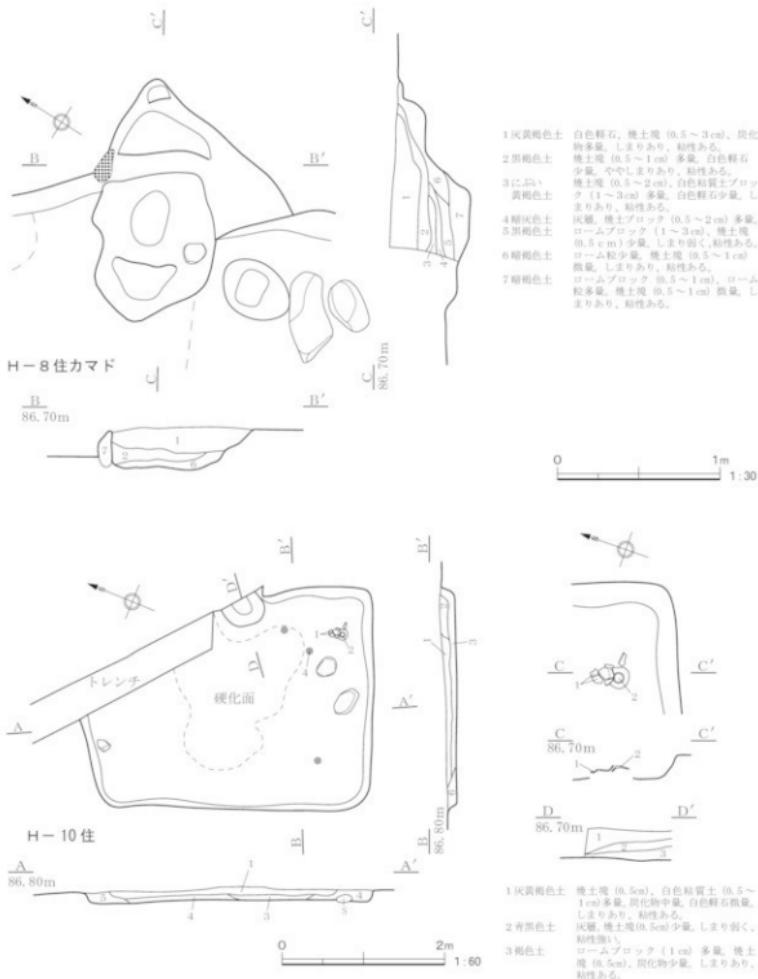


Fig. 14 H-8号住居跡カマド、H-10号住居跡

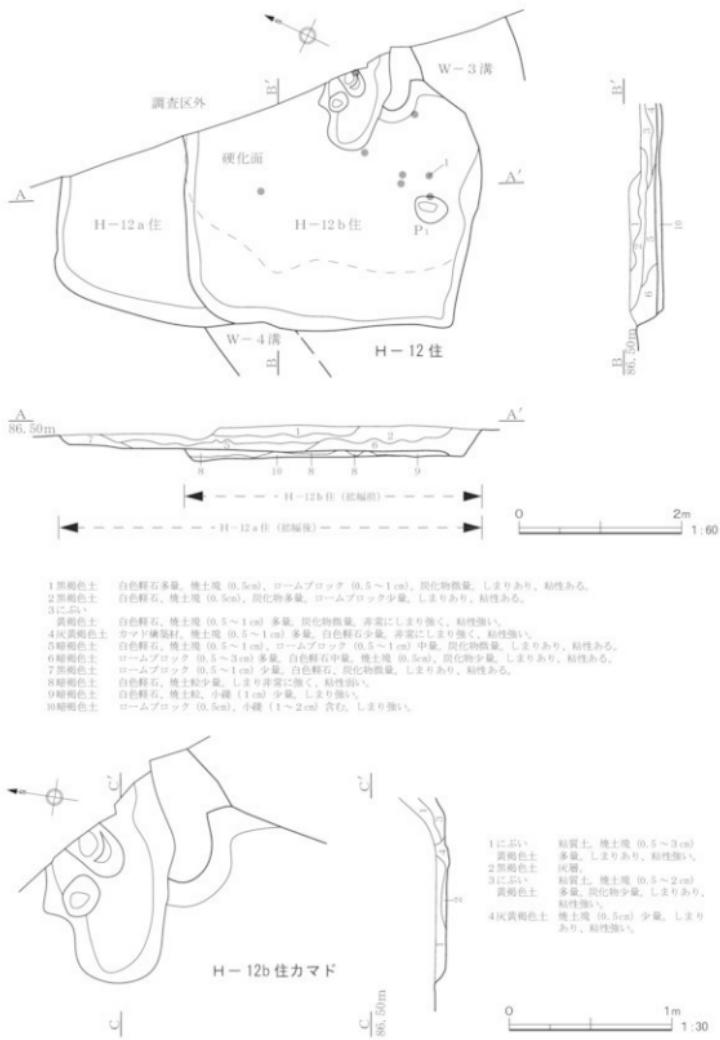


Fig. 15 H-12 号住居跡

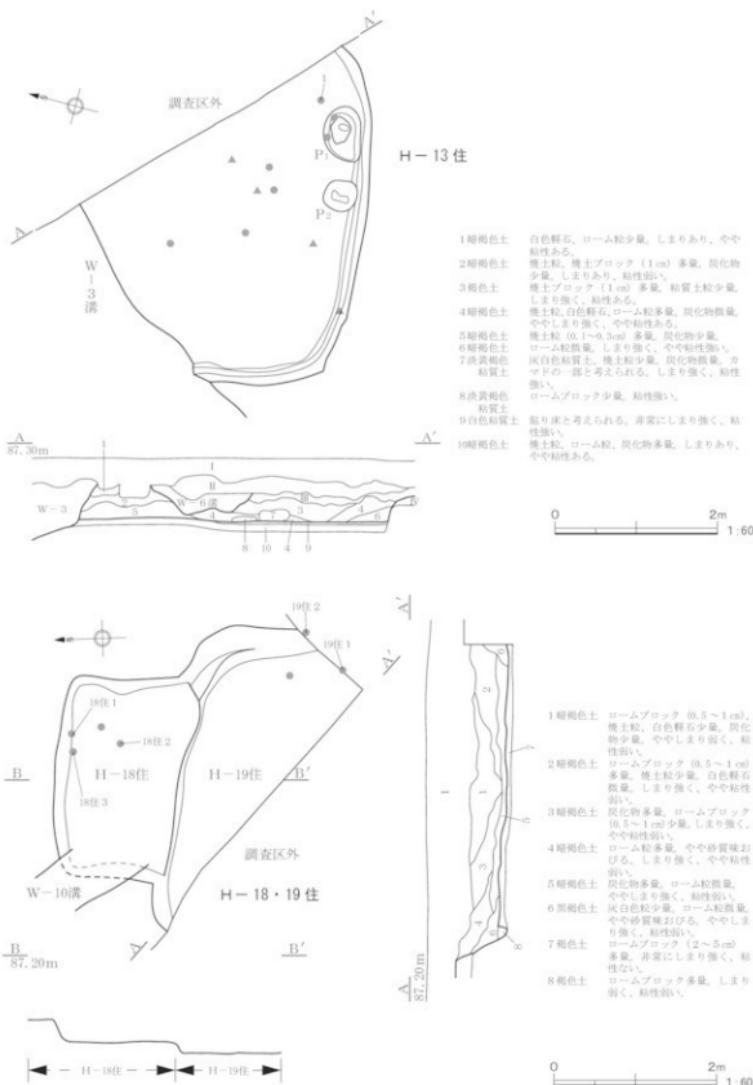
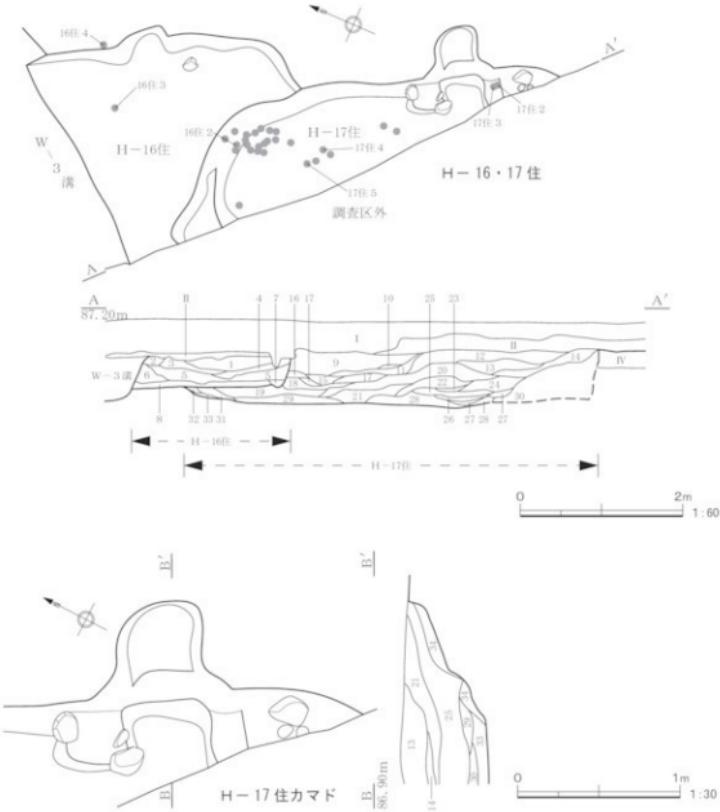


Fig. 16 H-13・18・19号住居跡



1 黒褐色土 白色粘質土粒。塊土粒、炭化物少量。しまりあり。粘性低い。
 2 黒褐色土 塗土粒、炭化物少量。しまりあり。粘性低い。
 3 黑褐色土 灰多量。白色粘質土粒。塊土粒。しまりあり。粘性高い。
 4 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。白色粘質土粒少量。しまりあり。粘性高い。
 5 黑褐色土 塗土粒。白色粘質土粒少量。塊土粒。しまりあり。粘性高い。
 6 黑褐色土 白色粘質土粒少量。ローム粒。塊土粒。しまりあり。粘性ある。
 7 黑褐色土 塗土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性ある。
 8 黑褐色土 塗土粒。炭化物微量。しまりく。粘性ある。
 9 黑褐色土 塗土粒。白色粘質土粒少量。泥りあり。粘性ある。
 10 黑褐色土 塗土粒。白色粘質土粒少量。泥りあり。粘性ある。
 11 黑褐色土 白色粘質土粒少量。しまりあり。粘性ある。
 12 黑褐色土 塗土粒。ローム粒微量。しまりあり。粘性低い。
 13 黑褐色土 塗土粒。白色粘質土粒。白色粘質土粒少量。しまりあり。粘性ある。
 14 黑褐色土 塗土粒。白色粘質土粒。ローム粒少量。しまりあり。粘性ある。
 15 黑褐色土 塗土粒。白色粘質土粒。白色粘質土粒少量。しまりあり。粘性ある。
 16 黑褐色土 塗土粒。白色粘質土粒。白色粘質土粒少量。しまりあり。粘性ある。
 17 黑褐色土 塗土粒。白色粘質土粒。白色粘質土粒少量。しまりあり。粘性ある。
 18 黑褐色土 塗土粒。白色粘質土粒。白色粘質土粒少量。しまりあり。粘性ある。
 19 黑褐色土 塗土粒。白色粘質土粒。白色粘質土粒少量。しまりあり。粘性ある。

20 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒、炭化物少量。しまりあり。粘性低い。
 21 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性ある。
 22 黑褐色土 白色粘質土粒ブロック少量。塊土粒少量。しまりあり。粘性ある。
 23 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性ある。
 24 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性ある。
 25 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性ある。
 26 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性低い。
 27 黑褐色土 白色粘質土粒ブロック少量。塊土粒少量。しまりあり。粘性低い。
 28 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性低い。
 29 黑褐色土 白色粘質土粒ブロック (0.2~3 cm) 多量。塊土粒、炭化物少量。しまりあり。粘性ある。
 30 黑褐色土 白色粘質土粒ブロック (0.2~3 cm) 少量。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性低い。
 31 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性低い。
 32 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性ある。
 33 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性ある。
 34 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性ある。
 35 黑褐色土 白色粘質土粒。塊土粒。炭化物微量。しまりあり。粘性ある。

Fig. 17 H-16・17号住居跡、H-17号住居跡カマド

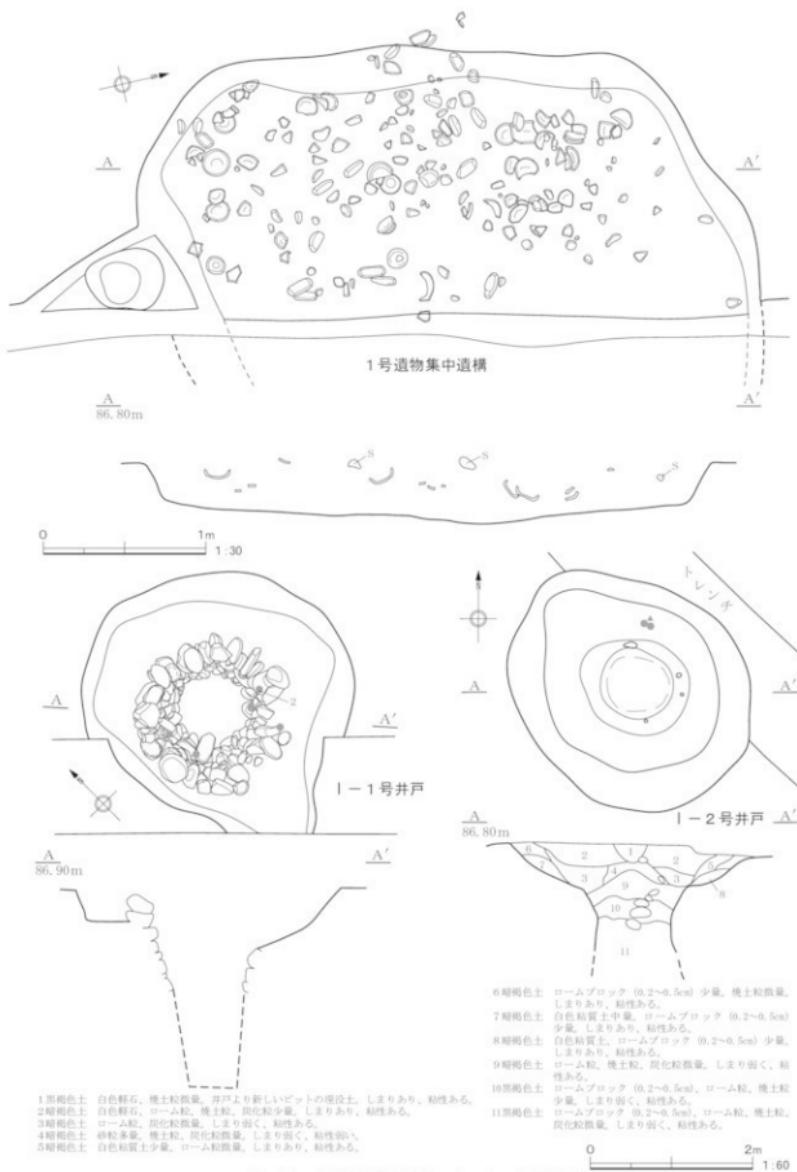


Fig. 18 1号遺物集中遺構、I-1・2号井戸

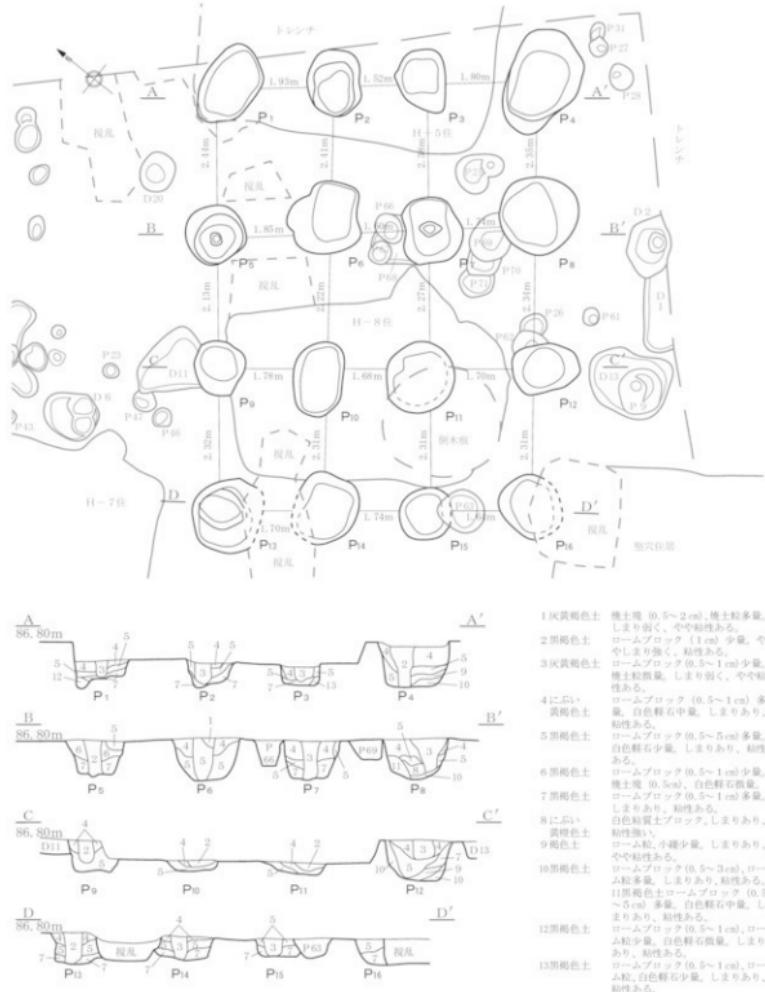


Fig. 19 B - 1号掘立柱建物跡

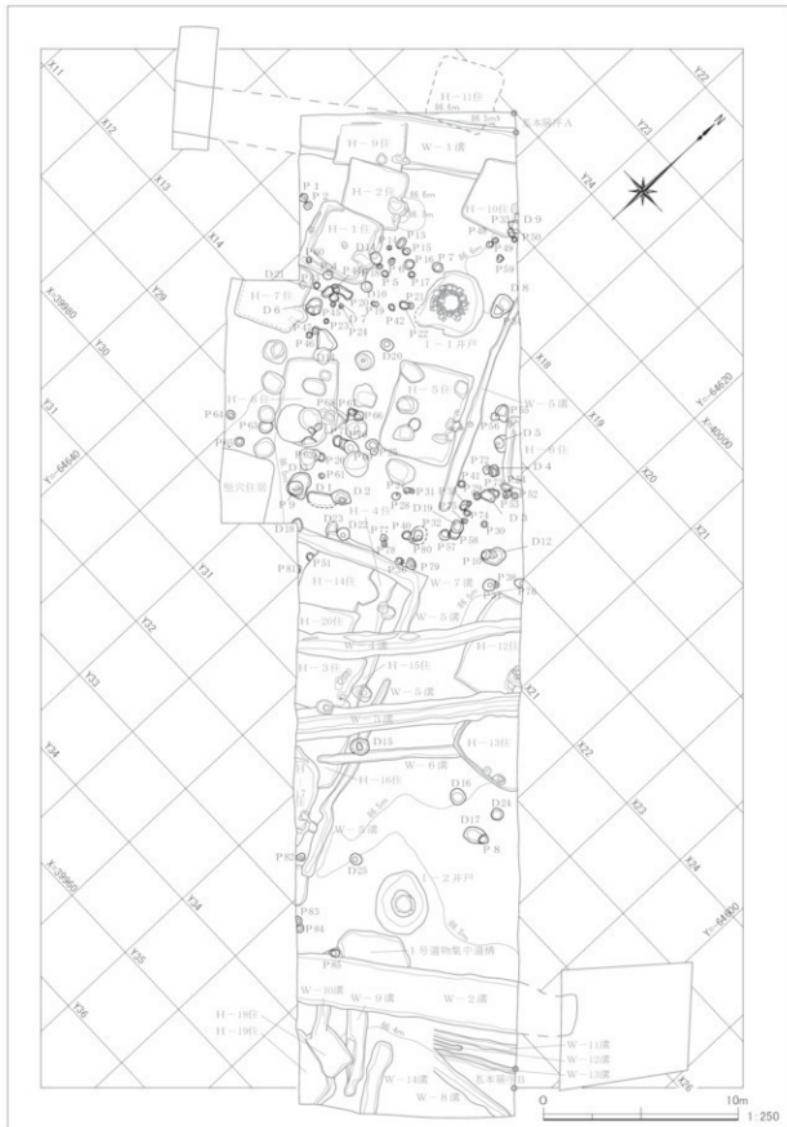


Fig. 20 土坑・ピット分布図

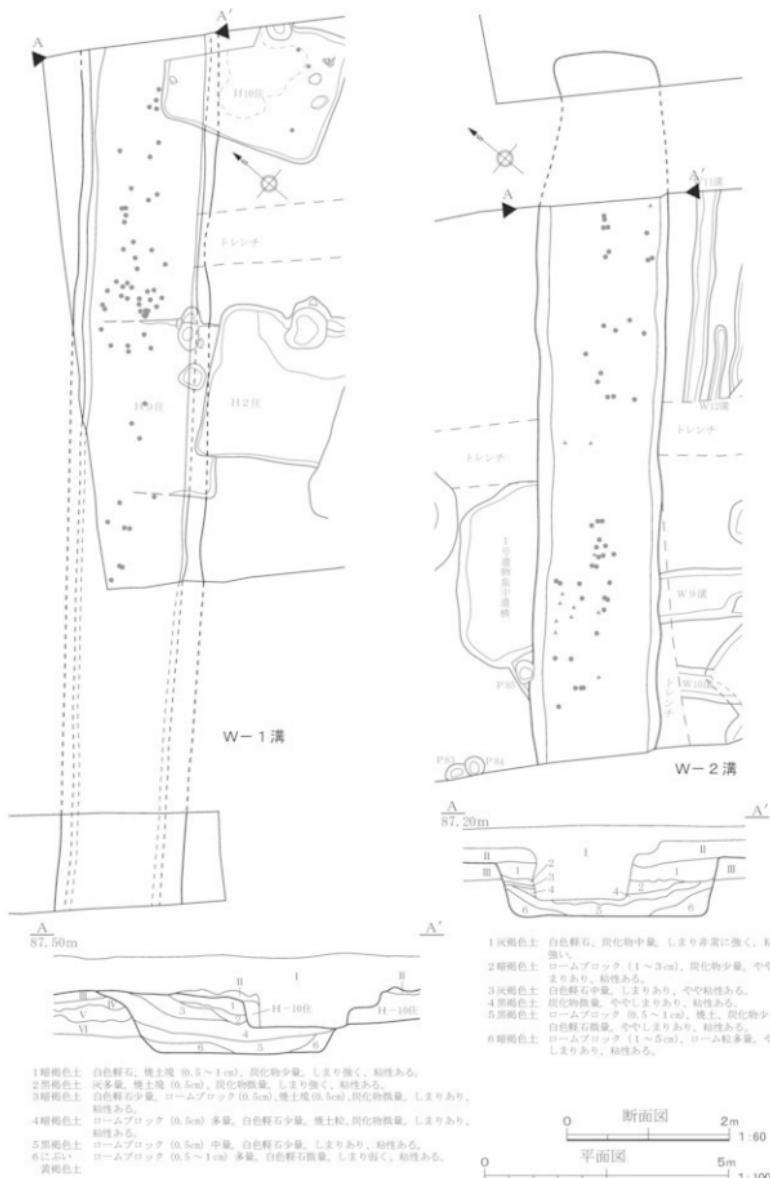


Fig. 21 W-1 • 2号溝

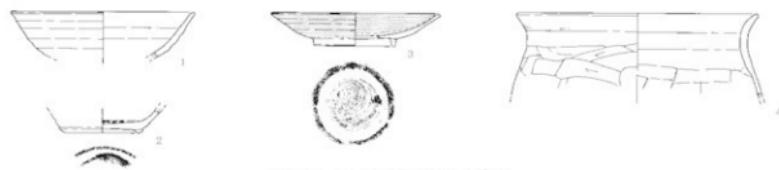


Fig. 22 H-1号住居跡出土遺物

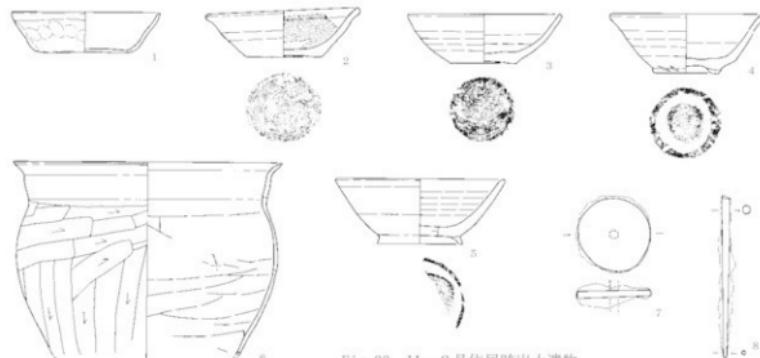


Fig. 23 H-2号住居跡出土遺物

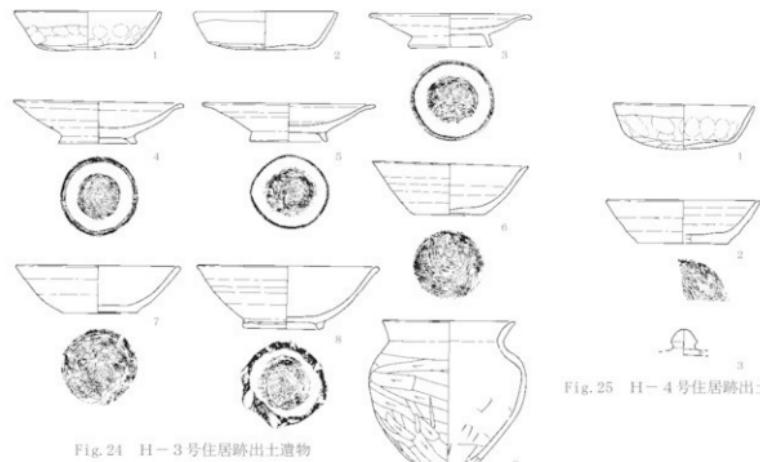


Fig. 24 H-3号住居跡出土遺物

Fig. 25 H-4号住居跡出土遺物

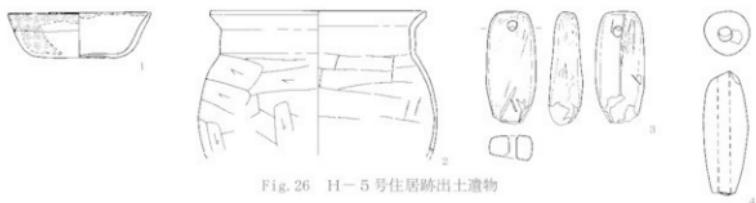


Fig. 26 H-5号住居跡出土遺物

Fig. 27 H-6号住居跡出土遺物

Fig. 28 H-7号住居跡出土遺物

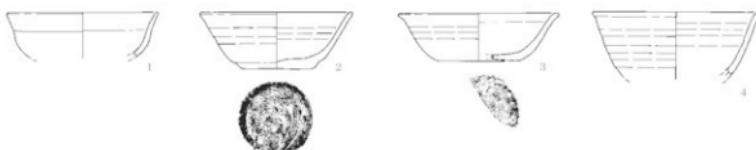


Fig. 29 H-8号住居跡出土遺物

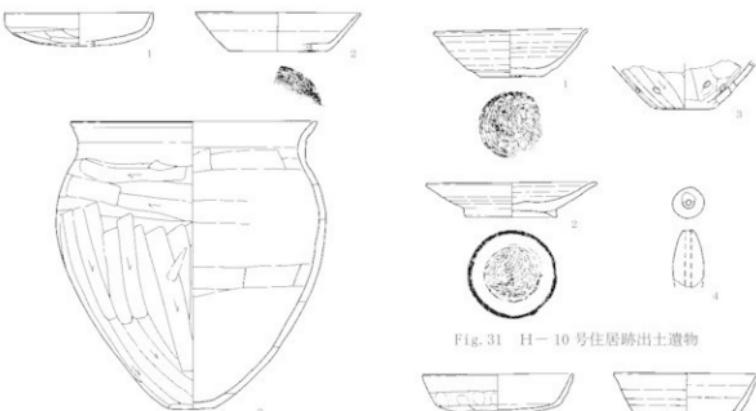


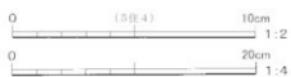
Fig. 30 H-9号住居跡出土遺物

Fig. 31 H-10号住居跡出土遺物



Fig. 32 H-12号住居跡出土遺物

Fig. 33 H-13号住居跡出土遺物



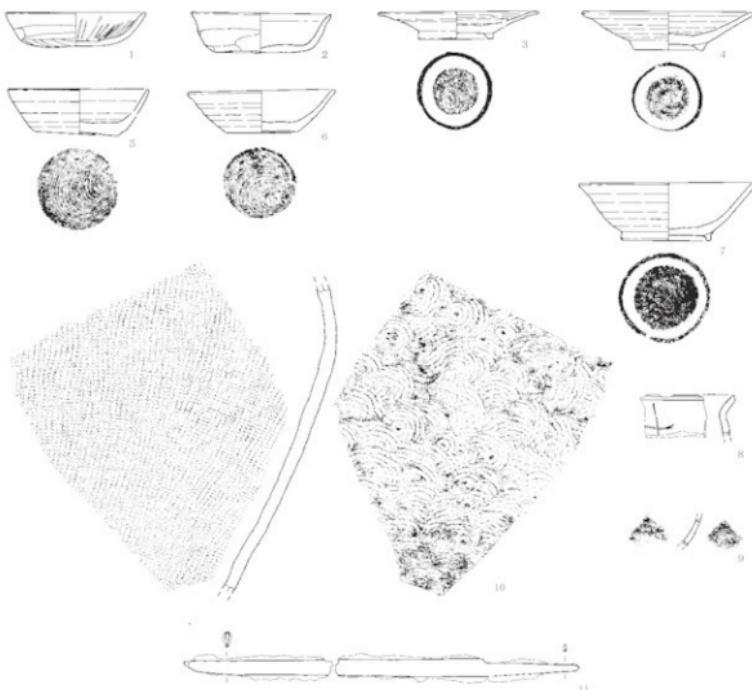


Fig. 34 H-14号住居跡出土遺物

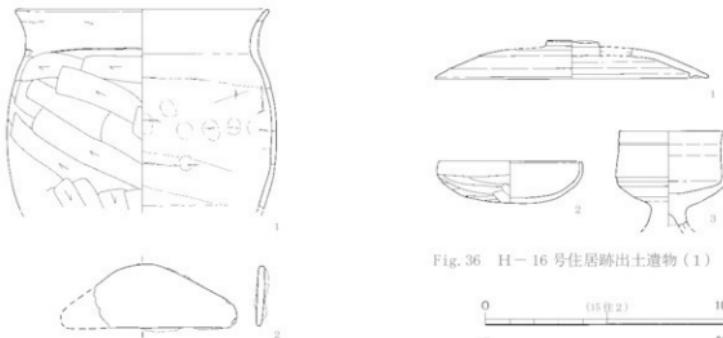


Fig. 35 H-15号住居跡出土遺物

Fig. 36 H-16号住居跡出土遺物(1)



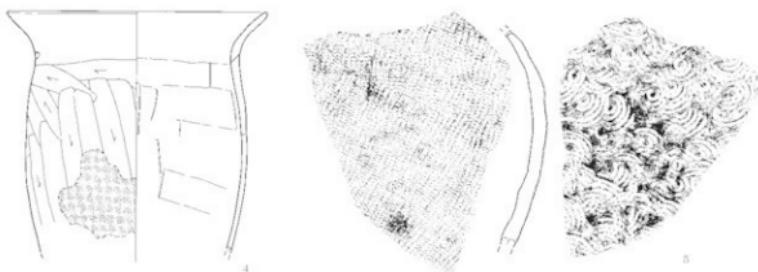


Fig. 37 H-16号住居跡出土遺物(2)

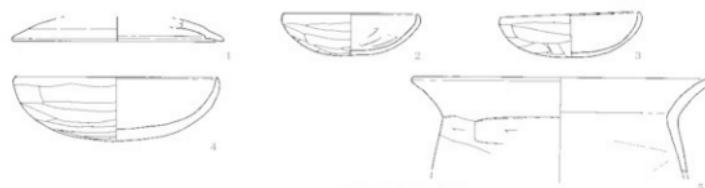


Fig. 38 H-17号住居跡出土遺物

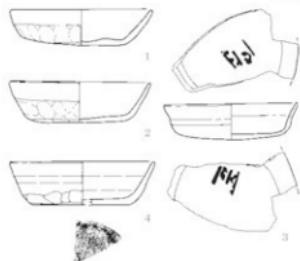


Fig. 39 H-18号住居跡出土遺物

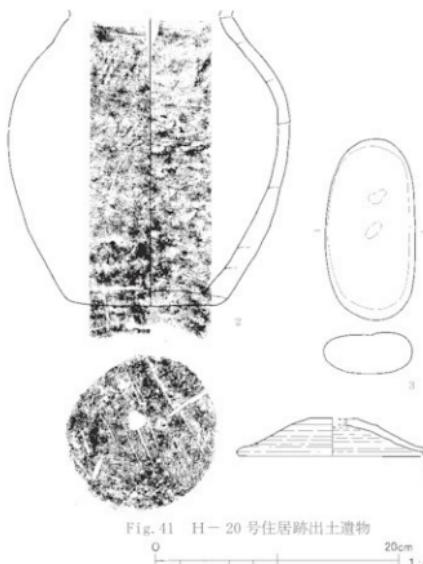


Fig. 41 H-20号住居跡出土遺物
0 20cm 1:4

Fig. 40 H-19号住居跡出土遺物

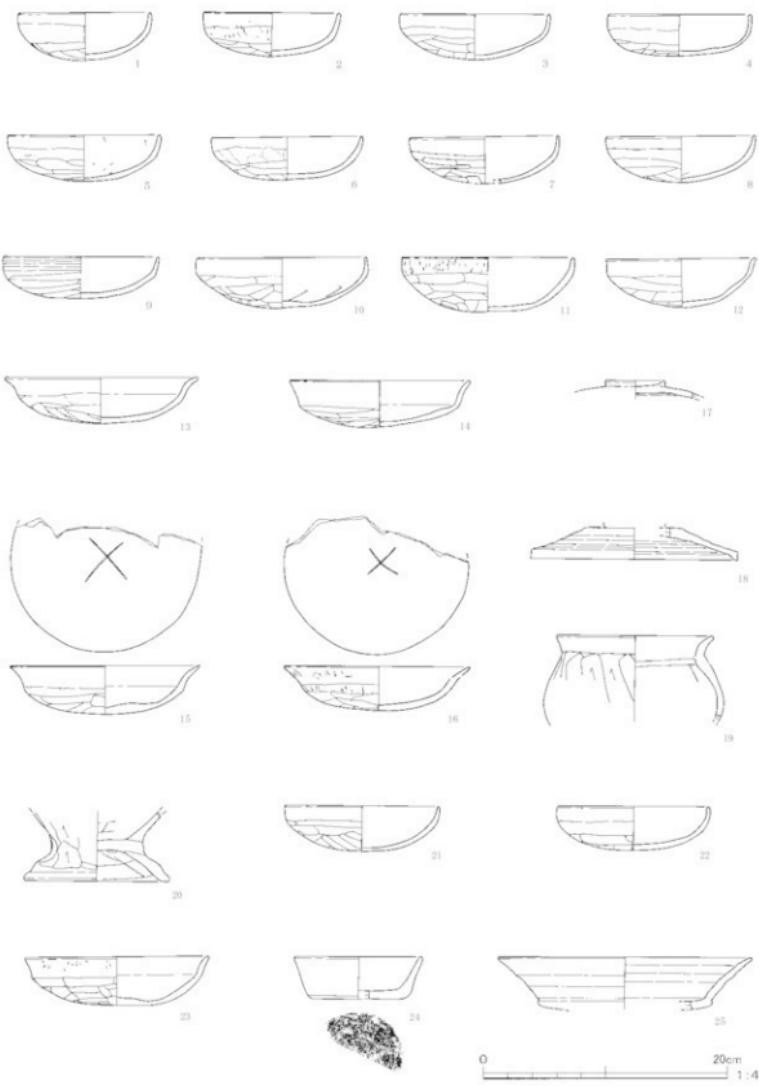


Fig. 42 1号遗物集中遗构出土遗物

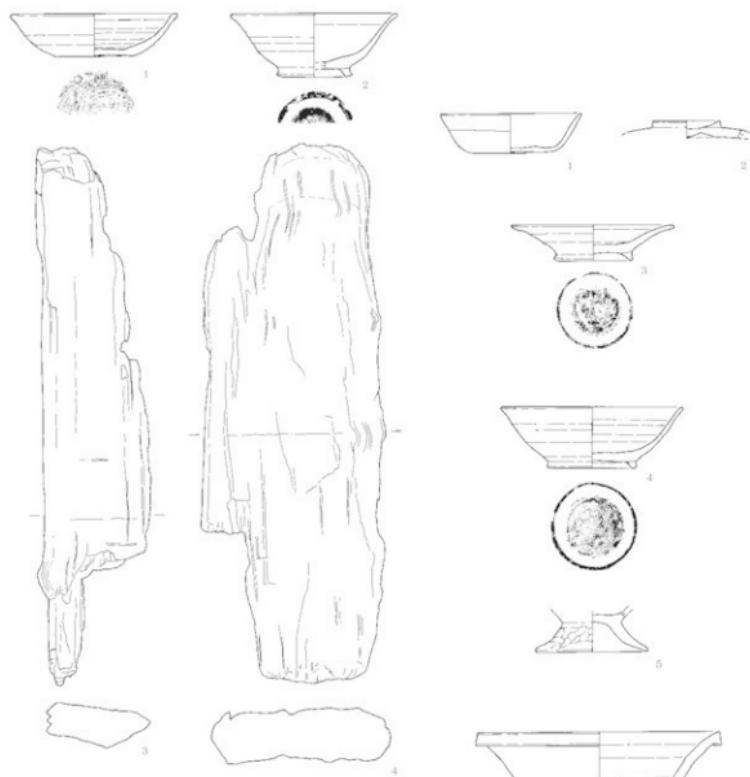


Fig. 43 I-1 壺井出土遺物

Fig. 44 I-2 壺井出土遺物

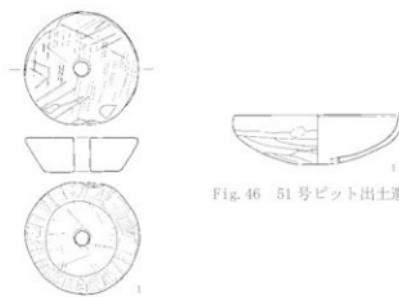


Fig. 45 D-8 号土坑出土遺物



Fig. 46 51号ピット出土遺物

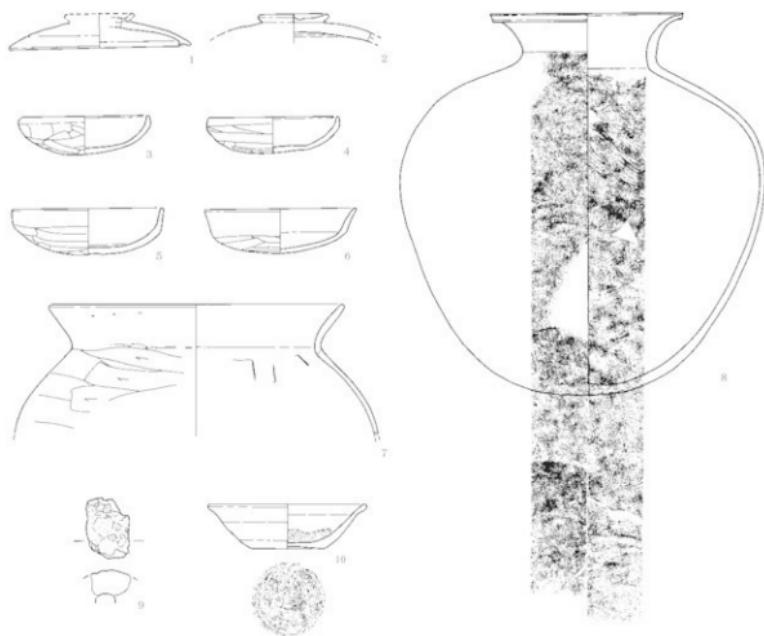


Fig. 47 W-1号溝出土遺物

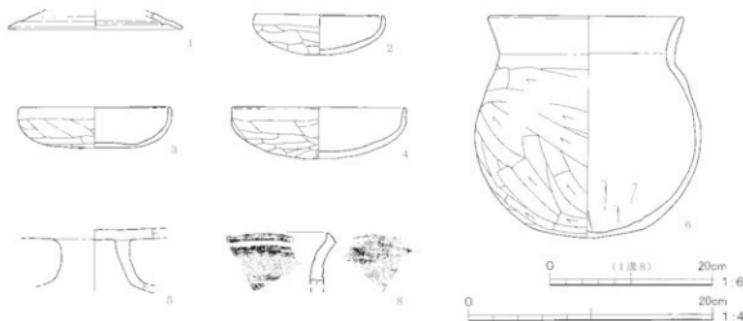


Fig. 48 W-2号溝出土遺物(1)

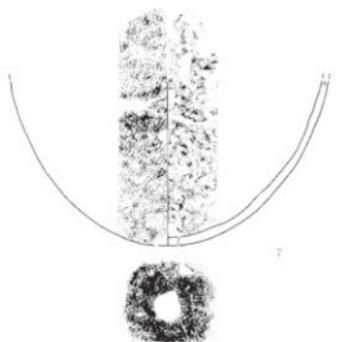


Fig. 49 W-2号溝出土遺物(2)

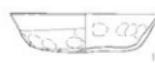


Fig. 50 W-3号溝出土遺物

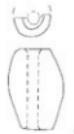


Fig. 51 W-7号溝出土遺物

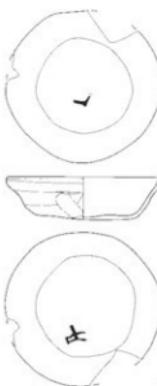
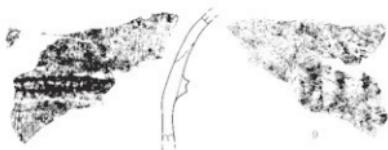


Fig. 52 W-14号溝出土遺物

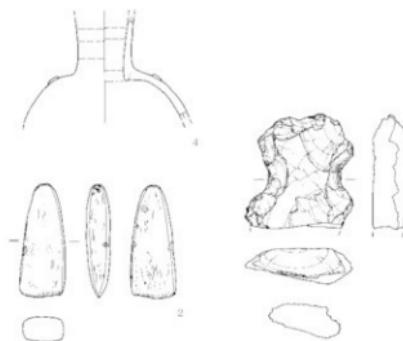


Fig. 53 遺構外出土遺物

Tab. 3 遺物観察表

H-1号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	須恵器 壇	口径 (18.1) 底径 — 器高 —	①片岩・チャート・黒色粒 ②にごり・黄褐色10YR6/4 ③口縁～全体1/4	外面 ロクロ整形。体部は丸みを持つ。 内面 ロクロ整形。	
2	須恵器 壇	口径 6.0 底径 6.0 器高 —	①片岩・チャート・黒色粒 ②灰黄褐色10YR5/2 ③底部	外面 ロクロ整形。底部回転系切り後、低い高台貼付。 内面 ロクロ整形。	
3	灰釉陶器 皿	口径 (14.6) 底径 (6.7) 器高 2.7	①鐵砂粒・白色粒 ②灰白7.5YR8/1 ③1/4	外面 ロクロ整形。高台部を除きハケ塗り施釉。 内面 ロクロ整形。見込み部を除きハケ塗り施釉。	
4	土師器 甕	口径 (19.6) 底径 — 器高 —	①片岩・チャート・黒色粒 ②灰黄褐色10YR6/2 ③口縁部～胴部上位1/2	外面 口縁部ヨコナギ、胴部上位横方向へラケズリ。「コ」の字状口縁。 内面 口縁部ヨコナギ、胴部へラナギ。	

H-2号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 甕	口径 12.2 底径 7.2 器高 3.3	①石英・チャート・黒色粒 ②橙10YR6/6 ③完形	外面 口縁部ヨコナギ、体部ナギ・指痕圧痕、底部へラケズリ。 内面 口縁部～底部ナギ。	
2	須恵器 壇	口径 12.8 底径 6.1 器高 3.8	①片岩・チャート・黒色粒 ②灰白7.5YR7/1 ③完形	外面 ロクロ整形。底部回転系切り無調整。口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	内面に煤付着。
3	須恵器 甕	口径 12.6 底径 5.4 器高 4.0	①片岩・チャート・白色粒 ②灰黄褐色7.5YR7/2 ③ほぼ完形	外面 ロクロ整形。底部回転系切り無調整。体部は内側して立ち上がり口縁部に至る。 内面 ロクロ整形。	
4	須恵器 壇	口径 (12.8) 底径 5.3 器高 4.8	①石英・黑色粒・白色粒 ②灰黄褐色10YR6/2 ③2/3	外面 ロクロ整形。底部回転系切り後、低い高台貼付。口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	
5	須恵器 壇	口径 (14.0) 底径 (7.0) 器高 5.3	①チャート・白色粒・赤褐色粒 ②黒褐色10YR3/2 ③1/3	外面 ロクロ整形。底部回転系切り後、高台貼付。 内面 ロクロ整形。	
6	土師器 甕	口径 (22.1) 底径 — 器高 —	①チャート・白色粒・黒色粒 ②橙10YR6/8 ③口縁～胴部中位1/3	外面 口縁部ヨコナギ、胴部へラケズリ。「コ」の字状口縁。 内面 口縁部ヨコナギ、胴部へラナギ。	
7	鉄鍛車	鉄製品。径 : 6.4cm×6.2cm 厚さ : 2.1cm 重さ : 68.06g			鉄輪。
8	鉄鍛車	鉄製品。残長 : 13.3cm 最大径 : 0.7cm 重さ : 18.80g			鉄茎。

H-3号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 甕	口径 12.1 底径 8.2 器高 3.2	①石英・黑色粒・白色粒 ②橙10YR6/6 ③ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナギ、体部ナギ・指痕圧痕、底部へラケズリ。 内面 口縁部ナギ、体部ナギ・指痕圧痕、底部ナギ。	外面に煤付着。
2	土師器 甕	口径 11.9 底径 8.9 器高 3.1	①石英・黑色粒・白色粒 ②橙10YR6/6 ③3/5	外面 口縁部ヨコナギ、体部ナギ・底部へラケズリ。 内面 口縁部～底部ナギ。	
3	須恵器 皿	口径 13.4 底径 6.9 器高 2.9	①片岩・チャート・白色粒 ②オリーブ緑5YR3/1 ③3/5	外面 ロクロ整形。底部回転系切り後、高台貼付。口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	いぶし焼成。
4	須恵器 皿	口径 14.1 底径 6.5 器高 3.6	①片岩・チャート・黒色粒 ②灰黄7.5YR7/2 ③4/5	外面 ロクロ整形。底部回転系切り後、高台貼付。口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	
5	須恵器 皿	口径 14.2 底径 6.4 器高 3.1	①片岩・チャート・黒色粒 ②灰白7.5YR7/1 ③4/5	外面 ロクロ整形。底部回転系切り後、高台貼付。口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	
6	須恵器 壇	口径 12.7 底径 5.8 器高 4.3	①片岩・チャート・黒色粒 ②灰黄2.5YR7/2 ③完形	外面 ロクロ整形。底部回転系切り無調整。 内面 ロクロ整形。	
7	須恵器 壇	口径 13.5 底径 6.2 器高 3.9	①片岩・チャート・黒色粒 ②灰白7.5YR7/1 ③4/5	外面 ロクロ整形。底部回転系切り無調整。 内面 ロクロ整形。	
8	須恵器 壇	口径 15.0 底径 6.3 器高 5.3	①片岩・チャート・黒色粒・白色粒 ②灰12.5YR8/1 ③2/3	外面 ロクロ整形。底部回転系切り後、高台貼付。口縁端部はわずかに外反する。高台底部に棒状圧痕。 内面 ロクロ整形。	
9	土師器 (台付甕)	口径 10.8 底径 — 器高 —	①チャート・黒色粒・白色粒 ②橙2.5YR6/8 ③台部欠損	外面 口縁部～肩部ヨコナギ、胴部へラケズリ。口縁部は「く」の字状に外反する。 内面 口縁部ヨコナギ、胴部へラナギ。	H-15もしくはH-20号住居跡の遺物か。

H-4号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 11.5 底径 9.0 器高 3.7	①チャート・石英・白色粒 ②橙黄R6/6 ③ぼかし形	外面 口縁部ヨコナデ、体部ナデ・指頭圧痕、底部ヘラケズリ。底部は丸底氣味。 内面 口縁部ヨコナデ、体部ナデ・指頭圧痕、底部ヘラナデ。	
2	須恵器 环	口径 (12.8) 底径 (7.5) 器高 3.5	①チャート・白色粒・白色粒 ②灰黄R6/1 ③1/8	外面 ロクロ整形、底部回転系切り無調整。 内面 ロクロ整形。	
3	須恵器 蓋	口径 — 底径 — 器高 —	①チャート・白色粒・白色粒 ②黄R2.5/R6/1 ③輪郭部	外面 ロクロ整形、宝珠状摘み。 内面 ロクロ整形。	

H-5号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 11.8 底径 7.4 器高 3.7	①チャート・石英・白色粒 ②橙黄R6/6 ③一部欠損	外面 口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	外面の口縁部中心に煤付着。
2	土師器 甕	口径 (17.9)	①チャート・石英・白色粒 ②橙黄R6/6	外面 口縁部ヨコナデ、胸部ヘラケズリ。「コ」の字状口縁。 内面 口縁部ヨコナデ、胸部ヘラナデ。	
3	砾石	石製品。長さ：19.2cm 幅：4.1cm 厚さ：2.8cm 孔径：0.8cm 重さ：143.6g 石材：流紋岩			鉄分付着。
4	土鍤	長さ：5.1cm 幅：1.8cm 孔径：0.55cm 重さ：15.54g 色：石英・白色粒			

H-6号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 (11.8) 底径 — 器高 —	①黑色粒・白色粒 ②明るい褐色R5/6 ③口縁～体部片	外面 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。口縁部と体部との境に弱い接合持つ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。放射状の暗文。	

H-7号住居跡

番号	器種	法量(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 (15.5) 底径 — 器高 —	①チャート・白色粒・白色粒 ②橙黄R6/6 ③口縁～体部片	外面 口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ。口縁部はわずかに内雙弧。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。	

H-8号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 (12.4) 底径 — 器高 —	①チャート・白色粒・白色粒 ②明るい褐色R5/6 ③口縁～体部1/3	外面 口縁部ヨコナデ、体部ナデ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ。	
2	須恵器 环	口径 (12.6) 底径 5.9 器高 4.6 ②/3	①片岩・チャート・白色粒 ②にやけ・褐色R7.5/R7/4 ③/2/3	外面 ロクロ整形、底部は台状で、回転系切り無調整。 内面 ロクロ整形。	擦元不完全。
3	須恵器 环	口径 (13.2) 底径 (6.5) 器高 4.3 ①/3	①片岩・チャート・白色粒 ②灰白2.5/R7/1 ③/2/3	外面 ロクロ整形。底部回転系切り無調整。口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	
4	須恵器 甕	口径 (13.8) 底径 — 器高 —	①片岩・チャート・白色粒 ②黄R2.5/R6/1 ③口縁～体部1/3	外面 ロクロ整形。口縁部は玉緑状。 内面 ロクロ整形。	

H-9号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 (12.2) 底径 — 器高 (2.7)	①黑色粒・白色粒 ②橙黄R6/6 ③1/5	外面 口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。丸底氣味で体部と底部との境は不明瞭。 内面 口縁部ヨコナデ、体部～底部ナデ。	
2	須恵器 环	口径 (13.6) 底径 (8.0) 器高 3.2 ③/1/6	①チャート・白色粒・白色粒 ②灰黄2.5/R6/1	外面 ロクロ整形。底部周縁部回転ヘラケズリ。 内面 ロクロ整形。	
3	土師器 甕	口径 20.2 底径 (3.7) 器高 23.6 ③/5/6	①石英・角閃石・白色粒 ②橙黄R6/6 ③底部下端片	外面 口縁部ヨコナデ、胸部ヘラケズリ、底部砂底。口縁部に凹窓。 内面 口縁部ヨコナデ、胸部～底部ヘラナデ。	外面に煤付着。

H-10号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	須恵器 环	口径 12.7 底径 5.2 器高 3.8 ③/3/4	①チャート・白色粒・白色粒 ②灰黄2.5/R7/2 ③/3/4	外面 ロクロ整形。底部は台状で回転系切り後、周縁部ナデ。 口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	
2	須恵器 甕	口径 14.0 底径 7.5 器高 2.9 ④/4/5	①片岩・チャート・白色粒 ②橙黄R6/6	外面 ロクロ整形。底部回転系切り後、高台貼付。口縁部はわずかに外反する。 内面 ロクロ整形。	酸化塩氣味の発成。
3	土師器 甕	口径 — 底径 (4.8) 器高 —	①チャート・白色粒・白色粒 ②にやけ・褐色R7.5/R4/4	外面 胸部ヘラケズリ。 内面 胸部ヘラナデ。	破片内に燒成後穿孔3あり。
4	土鍤	残長：4.7cm 幅：2.6cm 孔径：0.45cm 重さ：23.16g 色：石英・白色粒・白色粒 色調：灰黄2.5/R7/2/3/残存			

H-12号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 12.4 底径 10.2 器高 3.3	①石英・角閃石・白色粒 ②明赤褐色5R6/6 ③7/8	外面 口縁部ヨコナガ、体部ナデ・指痕有、底部ヘラケズリ。 丸底気味。 内面 口縁部へ体部ヨコナガ、底部ヘラケズリ。	
		口径 (12.1) 底径 (6.7) 器高 4.1	①黒色粒・白色粒 ②灰白N7/ ③1/6	外面 ロクロ整形、底部回転系切り無調整。 内面 ロクロ整形。	
2	須恵器 环	口径 11.8 底径 10.3 器高 3.5	①チャート・石英・黒色粒 ②櫻5R6/6 ③1/4形	外面 口縁部ヨコナガ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。 丸底気味。 内面 口縁部へ体部ヨコナガ、底部ナデ。	

H-13号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 11.8 底径 10.3 器高 3.5	①チャート・石英・黒色粒 ②櫻5R6/6 ③1/4形	外面 口縁部ヨコナガ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。 丸底気味。 内面 口縁部へ体部ヨコナガ、底部ナデ。	

H-14号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 11.5 底径 8.0 器高 2.8	①チャート・石英・黒色粒 ②櫻5R6/6 ③ほぼ完形	外面 口縁部ヨコナガ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面 口縁部へ体部ヨコナガ、底部ナデ。口縁部へ底部に放射状の縞文。	
2	土師器 环	口径 11.5 底径 7.7 器高 3.3	①チャート・角閃石・白色粒 ②櫻2.5Y6/6 ③4/4形	外面 口縁部ヨコナガ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面 口縁部へ底部ナデ。	
3	須恵器 皿	口径 (13.2) 底径 5.1 器高 2.3	①片岩・チャート・黒色粒 ②黄灰2.5Y6/1 ③1/2	外面 ロクロ整形、底部回転系切り後、高台貼付。口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	
4	須恵器 皿	口径 14.1 底径 5.8 器高 3.1	①片岩・チャート・黒色粒 ②灰黄2.5Y6/2 ③2/3	外面 ロクロ整形、底部系切り後、高台貼付。口縁部はやや外反する。 内面 ロクロ整形。	
5	須恵器 环	口径 (11.6) 底径 6.7 器高 3.6	①黒色粒・白色粒 ②灰2.5Y6/1 ③3/4	外面 ロクロ整形、底部回転系切り無調整。 内面 ロクロ整形。	
6	須恵器 环	口径 12.2 底径 5.9 器高 3.5	①黒色粒・白色粒・赤褐色粒 ②灰S6/1 ③4/5	外面 ロクロ整形、底部回転系切り無調整。 内面 ロクロ整形。	
7	須恵器 環	口径 14.6 底径 7.0 器高 4.8	①片岩・チャート・石英 ②灰褐3.5Y3/1 ③ほぼ完形	外面 ロクロ整形、底部回転系切り後、高台貼付。口縁部はわざがくに外反する。 内面 ロクロ整形。	いぶし焼成。
8	土師器 甕	口径 — 底径 — 器高 —	①チャート・黒色粒・白色粒 ②明赤褐色5R5/6 ③口縁部片	外面 口縁部ヨコナガ。 内面 口縁部ヨコナガ。	外面に織刻あり。
9	須恵器 (碗)	口径 — 底径 — 器高 —	①チャート・黒色粒・白色粒 ②黄灰2.5Y6/1 ③小片	外面 ロクロ整形。 内面 ロクロ整形。	内面に織刻あり。
10	須恵器 (甕)	口径 — 底径 — 器高 —	①チャート・黒色粒・白色粒 ②黄灰2.5Y6/1 ③胴部片	外面 楊子格子目状タタキ。 内面 同心円状の当具痕。	掘方出土。16号住居跡と接合。
11	小刀	鉄製品。全長：31.9cm以上 刃部長：24.2cm以上 刃部幅：1.3cm 茎長：7.7cm 残重：87.63g		背面開。	掘方出土。

H-15号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 甕	口径 (20.9)	①チャート・石英・黒色粒 ②灰褐色5R4/4	外面 口縁部ヨコナガ、胴部ヘラケズリ。口縁部は外反する。 内面 口縁部ヨコナガ、胴部木口状工具による弱いナデ・指痕有。	
		底径 (3.7)	③口縁部		
		器高 (3.7)	③1/6		
2	火打金 鉄製品	長さ：2.6cm 幅：(7.3cm)	厚さ：0.3cm	残重：16.01g	
3	火打石 石製品	長さ：2.8cm 幅：3.7cm	厚さ：1.9cm 重さ：23.73g	石材：石英	写真のみ掲載。

H-16号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	須恵器 蓋	口径 (22.5) 底径 4.3 器高 (3.7)	①チャート・黒色粒 ②灰白5Y8/1 ③1/6	外面 ロクロ整形、天井部回転ヘラケズリ。横みは中央部がやや盛り上げる円板状。 内面 ロクロ整形、凹りを持つ。	
2	土師器 环	口径 (11.7) 底径 — 器高 —	①チャート・石英・黒色粒 ②明赤褐色5R5/6	外面 口縁部ヨコナガ、体部へ底部ヘラケズリ。口縁部はやや内彎する。丸底と体部との境は不明瞭。 内面 口縁部へ体部ヨコナガ、底部ナデ。	
3	須恵器 台付甕	口径 (8.7) 底径 — 器高 —	①石英・黒色粒・白色粒 ②灰M4/ ③颈部3/2と台下位欠損	外面 ロクロ整形。口縁部下に1条・体部下位に1条の回線。底底部回転ヘラケズリ。 内面 ロクロ整形。	
4	土師器 甕	口径 21.5 底径 — 器高 —	①チャート・黒色粒・白色粒 ②(ごく)赤褐色5R5/4	外面 口縁部ヨコナガ、胴部ヘラケズリ。口縁部は外反して開く。 内面 口縁部ヨコナガ。胴部ヘラナデ。	外面部に粘土・煤付着。
5	須恵器 (甕)	口径 — 底径 — 器高 —	①チャート・黒色粒・白色粒 ②黄灰2.5Y6/1 ③胴部片	外面 楊子格子目状タタキ。 内面 同心円状の当具痕。	掘方出土。14号住居跡と接合。

H-17号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	須恵器 蓋	口径(17.5)	①石英・黒色粒・白色粒	外面 口クロ形態。	
		底径 -	②灰白7.5/RS5/4	内面 口クロ形態。返りを持つ。	
		器高 -	③口縁部片		
2	土師器 环	口径 10.9	①チャート・石英・黒色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部～底部へラケズリ。口縁部は内	
		底径 -	②に灰・赤褐5/RS5/4	縁。丸底で体部との境は不明瞭。	
		器高 3.4	③ほぼ完形	内面 口縁部ヨコナヂ。体部～底部へナダ。	
3	土師器 环	口径 11.4	①チャート・石英・黒色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部～底部へラケズリ。口縁部は内	
		底径 -	②橙5/RS6/6	縁。丸底で体部との境は不明瞭。	
		器高 3.5	③完形	内面 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ナダ。	
4	土師器 环	口径 16.6	①チャート・石英・黒色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部～底部へラケズリ。口縁部は内	
		底径 -	②橙5/RS6/6	縁。丸底で体部との境は不明瞭。	
		器高 5.2	③完形	内面 口縁部～体部ヨコナヂ。底部ナダ。	
5	土師器 甕	口径(24.6)	①石英・角閃石・白色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。胴部へラケズリ。口縁部は外反して	
		底径 -	②に灰・黄褐10/RS7/3	開く。	
		器高 -	③口縁部～胴部上位1/5	内面 口縁部ヨコナヂ。胴部へナダ。	

H-18号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 11.7	①チャート・黑色粒・白色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ・指項圧痕・底部ヘラケズリ。	
		底径 8.3	②明褐7.5/RS5/6	内面 口縁部～体部ヨコナヂ・底部ナダ。	
		器高 3.9	③完形		
2	土師器 环	口径 11.6	①チャート・黑色粒・白色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ・指項圧痕・底部ヘラケズリ。	内外底部に墨 書きがあるが墨痕 薄く判読不明。 「門」か。
		底径 8.2	②明褐7.5/RS5/6	内面 口縁部～体部ヨコナヂ・底部ナダ。	
		器高 3.1	③1/2		
3	土師器 环	口径 (10.9)	①チャート・黑色粒・白色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ・底部ヘラケズリ。	内外底部に墨 書き。外とも 「門」か。
		底径 8.4	②明褐7.5/RS5/6	内面 口縁部～体部ヨコナヂ・底部ナダ。	
		器高 2.9	③1/3		
4	須恵器 环	口径 (11.8)	①黑色粒・白色粒	外面 口クロ形態。体部下端は手持ちヘラケズリ。底部ヘラ	
		底径 (8.5)	②灰10/6/1	起こし後、周縁部手持ちヘラケズリ。	
		器高 3.5	③1/6	内面 口クロ形態。	

H-19号住居跡

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 11.8	①石英・角閃石・白色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ・指項圧痕・底部ヘラケズリ。	
		底径 7.0	②に灰・赤褐5/RS5/4	内面 口縁部～体部ヨコナヂ・底部ナダ。	
		器高 3.3	③ほぼ完形		
2	須恵器 环	口径 (14.5)	①片岩・チャート・石英	外面 口クロ形態。底部回転系切り後、高台貼付。	内底部色調は灰 褐色(7.5/RS5/2)、 重ね焼き。
		底径 (7.0)	②灰6/6	内面 口クロ形態。	
		器高 5.5	③1/3		
H-20号住居跡					
番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	須恵器 蓋	口径 11.8	①チャート・石英・黒色粒	外面 口クロ形態。天井部回転ヘラケズリ。口縁端部は下方	
		底径 -	②灰白5/7/2	に折れる。	
		器高 -	③1/4、瓶み部欠損	内面 口クロ形態。	
2	須恵器 甕	口径 12.5	①チャート・石英・黒色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ・底部ヘラケズリ。	
		底径 12.5	②灰6/6	内面 胸部無文の當て具瓶・ナヂ・底部ナヂ。	
		器高 5.5	③胸3/4		
1号遺物集中遺構(1)					
番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 11.0	①チャート・石英・黒色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ・底部ヘラケズリ。丸底。	
		底径 -	②橙5/RS6/6	体部は丸みを持ち内縁氣味の口縁部に至る。	
		器高 3.9	③ほぼ完形	内面 口縁部～体部ヨコナヂ・底部ナヂ。	下層出土。
2	土師器 环	口径 11.3	①チャート・石英・黒色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ・底部ヘラケズリ。丸底。	
		底径 -	②橙5/RS6/6	体部は丸みを持ち内縁氣味の口縁部に至る。	
		器高 3.6	③2/3	内面 口縁部～体部ヨコナヂ・底部ナヂ。	下層出土。
3	土師器 外	口径 12.4	①角閃石・赤褐色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ・底部ヘラケズリ。丸底。	
		底径 -	②橙5/RS6/6	体部は丸みを持ち内縁氣味の口縁部に至る。	
		器高 3.8	③ほぼ完形	内面 口縁部～体部ヨコナヂ・底部ナヂ。	下層出土。
4	土師器 环	口径 11.8	①黑色粒・白色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ・底部ヘラケズリ。丸底。	
		底径 -	②橙5/RS6/6	体部は丸みを持ち内縁氣味の口縁部に至る。	
		器高 3.4	③一部欠損	内面 口縁部～体部ヨコナヂ・底部ナヂ。	下層出土。
5	土師器 环	口径 12.6	①黑色粒・白色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ・底部ヘラケズリ。丸底。	
		底径 -	②に灰・赤褐5/RS5/4	体部は丸みを持ち内縁氣味の口縁部に至る。	
		器高 3.8	③ほぼ完形	内面 口縁部～体部ヨコナヂ・爪状痕・底部ナヂ。	下層出土。
6	土師器 环	口径 12.4	①チャート・石英・黒色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ・底部ヘラケズリ。丸底。	
		底径 -	②に灰・赤褐5/RS5/4	体部は丸みを持ち内縁氣味の口縁部に至る。	
		器高 3.5	③一部欠損	内面 口縁部～体部ヨコナヂ・底部ナヂ。	下層出土。
7	土師器 环	口径 12.3	①チャート・石英・黒色粒	外面 口縁部ヨコナヂ。体部上位ナヂ・以下ヘラケズリ。丸底。	
		底径 -	②橙5/RS6/6	体部は丸みを持ち内縁氣味の口縁部に至る。	
		器高 (3.8)	③一部欠損	内面 口縁部～体部ヨコナヂ・底部ナヂ。	下層出土。

1号遺物集中造模(2)

8	土師器 环	口径 12.3 底径 3.8 器高 3.8	①チャート・石英・角閃石 ②櫻5YR6/6 ③一部欠損	外面 口縁部ヨコナデ、体部上位ナデ、以下ヘラケズリ。丸底。体部は丸みを持ち内壁気味の口縁部に至る。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ヘナデ。	下層出土。
9	土師器 环	口径 12.8 底径 3.4 器高 3.4	①チャート・石英・角閃石 ②にぶい櫻5YR6/4 ③完形	外面 口縁部木状工具ナデ、体部上位ナデ、以下ヘラケズリ。丸底。体部は丸みを持ち内壁気味の口縁部に至る。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	下層出土。
10	土師器 环	口径 14.0 底径 4.2 器高 4.2	①チャート・石英・黒色粒 ②にぶい櫻5YR6/3 ③一部欠損	外面 口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。丸底。口縁部は内緑気味。 内面 口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘナデ。	下層出土。
11	土師器 环	口径 14.2 底径 4.4 器高 4.4	①チャート・石英・黒色粒 ②にぶい赤櫻5YR5/4 ③一部欠損	外面 口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。丸底。口縁部は直立気味。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	下層出土。
12	土師器 环	口径 12.4 底径 4.0 器高 4.0	①チャート・石英・黒色粒 ②にぶい櫻5YR6/4 ③2/3	外面 口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。丸底。口縁部はわざわざ内緑し端部は外反する。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	下層出土。
13	土師器 环	口径 15.9 底径 3.8 器高 3.8	①チャート・石英・黒色粒 ②にぶい赤櫻5YR5/4 ③完形	外面 口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。丸底。口縁部は外反して開く。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	下層出土。
14	土師器 环	口径 14.7 底径 3.8 器高 3.8	①チャート・石英・角閃石 ②櫻5YR6/6 ③一部欠損	外面 口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。丸底。口縁部は外反して開く。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	下層出土。
15	土師器 环	口径 15.6 底径 3.9 器高 3.9	①チャート・石英・黒色粒 ②櫻5YR6/6 ③2/3	外面 口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。丸底。口縁部は外反して開く。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	下層出土。内底部に線刻「×」あり。
16	土師器 环	口径 (16.3) 底径 3.6 器高 3.6	①チャート・石英・黒色粒 ②櫻5YR6/6 ③2/3	外面 口縁部ヨコナデ、体部弱いナデ、底部ヘラケズリ。丸底。口縁部は外反して開く。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	下層出土。内底部に線刻「×」あり。
17	須恵器 蓋	口径 5.0 底径 5.0 器高 -	①チャート・石英・黒色粒 ②灰M4/ ③楕み部へ天井部	外面 ロクロ整形。天井部回転ヘラケズリ。横状撲みを貼付。 内面 ロクロ整形。	下層出土。
18	須恵器 蓋	口径 (17.0) 底径 5.0 器高 5.0	①チャート・石英・黒色粒 ②灰M6/ ③1/5	外面 ロクロ整形。天井部回転ヘラケズリ。口縁部は下方に折れる。 内面 ロクロ整形。	下層出土。
19	土師器 小型甕	口径 13.0 底径 6.2 器高 5.5	①チャート・石英・黒色粒 ②灰M3/ ③口縁部へ胴部上位	外面 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。口縁部は短く外反気味に開く。 内面 口縁部ヨコナデ、胴部ヘナデ。	下層出土。
20	土師器 台付甕	口径 12.6 底径 (11.7) 器高 5.7	①チャート・石英・角閃石 ②明赤櫻2.5YR5/6 ③台部	外面 脇部下位へ台部ヘラケズリ、台部脛部ヨコナデ。 内面 脇部下位・台部ヘナデ。	下層出土。
21	土師器 环	口径 12.8 底径 6.7 器高 3.7	①チャート・石英・角閃石 ②櫻5YR6/6 ③一部欠損	外面 口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。丸底。体部は丸みを持ち内壁気味の口縁部に至る。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	上層出土。
22	土師器 环	口径 12.6 底径 3.6 器高 3.6	①チャート・石英・黒色粒 ②にぶい櫻7.5YR6/4 ③3/6	外面 口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。丸底。体部は丸みを持ち内壁気味の口縁部に至る。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	上層出土。
23	土師器 环	口径 15.1 底径 4.0 器高 4.0	①チャート・石英・黒色粒 ②にぶい櫻5YR6/4 ③一部欠損	外面 口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラケズリ。口縁部は体部との境に弱い線を持ち外反して開く。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	上層出土。
24	須恵器 环	口径 (10.5) 底径 (7.5) 器高 3.5	①チャート・石英・角閃石 ②灰M5/1 ③1/3	外面 ロクロ整形。口縁部下端～底部回転ヘラケズリ。 内面 ロクロ整形。	上層出土。
25	須恵器 (高坪)	口径 (20.9) 底径 - 器高 -	①チャート・石英・角閃石 ②灰白M7/1 ③坪部分	外面 ロクロ整形。口縁部は体部との境に横を持ち外反して開く。 内面 ロクロ整形。	上層出土。

1-1号井戸

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	須恵器 环	口径 (13.8) 底径 (6.2) 器高 3.5	①石英・黒色粒・白色粒 ②にぶい 黒櫻5YR1B6/3 ③1/2	外面 ロクロ整形。底部回転系切り無調整。口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	内外面に煤付有。
2	須恵器 甕	口径 (13.7) 底径 (6.1) 器高 5.2	①石英・黒色粒・白色粒 ②灰M2.5YR6/2 ③1/2	外面 ロクロ整形。底部希切り後、高台貼付。口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	内底部に重ね焼き底。
3	井戸枠	木製品	長さ: 67.0cm 幅: 14.3cm 厚さ: 5.7cm		
4	井戸枠	木製品	長さ: 67.2cm 幅: 23.1cm 厚さ: 6.7cm		

1-2号井戸(1)

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 (11.5) 底径 7.2 器高 3.2	①チャート・黒色粒・白色粒 ②櫻5YR6/6 ③1/2	外面 口縁部ヨコナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	
2	須恵器 蓋	口径 (6.5) 底径 - 器高 -	①黒色粒・白色粒 ②灰M6/1 ③楕み部へ天井部1/3	外面 ロクロ整形。天井部回転ヘラケズリ。横状撲みを貼付。 内面 ロクロ整形。	

I-2号井戸(2)

3	須恵器 皿	口径 (13.4) 底径 6.5 器高 2.9 ③2/3	①チャート・石英・白色粒 ②灰CN/ ③2/3	外面 ロクロ整形。底部回転系切り後、高台貼付。口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	
4	須恵器 塊	口径 (15.0) 底径 7.4 器高 5.0 ③1/2	①チャート・石英・黒色粒 ②灰白2.5TR5/2 ③台部	外面 ロクロ整形。底部回転系切り後、高台貼付。口縁部は丸底(55°)に外反する。 内面 ロクロ整形。	内底部色調は 灰褐(55°), 重ね焼き痕。
5	土師器 台付甕	口径 — 底径 9.2 器高 — ③台部	①石英・白色粒・白色粒 ②灰黄褐10TR5/2 ③台部	外面 台部ナデ・指頭圧痕。 内面 台部上位ナデ、下位ヨコナデ。	
6	須恵器 甕	口径 (19.8) 底径 — 器高 — ③口縁部1/5	①チャート・石英・白色粒 ②灰CN/ ③口縁部1/5	外面 口縁部回転ナデ。口唇部は下方に延びる。 内面 口縁部回転ナデ。	

D-8号土坑

番号	器種	法量等	備考
3	防揮車	石製品。上面径: 4.6cm 下面径: 2.9cm 厚さ: 1.4cm 孔径: 0.6cm 重さ: 46.85g 石材: 蛇紋岩	

51号ピット

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 (13.6) 底径 — 器高 (4.0) ③1/3	①石英・角閃石・白色粒 ②灰7.5TR5/4 ③1/3	外面 口縁部ヨコナデ・体部上位ナデ。以下ヘラケズリ。丸底。口縁部はやや内彎する。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	

W-1号溝

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	須恵器 蓋	口径 (18.4) 底径 — 器高 — ③1/6	①石英・白色粒 ②灰7.5TR7/1 ③1/6	外面 ロクロ整形。天井部回転ヘラケズリ。 内面 ロクロ整形。返りを持つ。	
2	須恵器 蓋	口径 — 底径 5.9 器高 — ③1/6	①チャート・石英・白色粒 ②灰7.5TR5/1 ③1/6	外面 ロクロ整形。天井部は丸みを持つ。貼付される摘みは円板状粘土の内側を僅ませ。中央部はやや隆起する。 内面 ロクロ整形。	
3	土師器 环	口径 10.5 底径 — 器高 3.1 ③完形	①チャート・石英・黒色粒 ②明赤7.5TR5/6 ③完形	外面 口縁部ヨコナデ・体部上位ナデ。以下ヘラケズリ。丸底。口縁部はやや内彎する。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	
4	土師器 环	口径 10.6 底径 — 器高 2.9 ③一部欠損	①チャート・石英・黒色粒 ②明赤7.5TR5/6 ③一部欠損	外面 口縁部ヨコナデ・体部～底部ヘラケズリ。丸底。口縁部はやや内凹する。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	
5	土師器 环	口径 12.5 底径 — 器高 3.8 ③3/4	①チャート・石英・黒色粒 ②明赤7.5TR5/6 ③3/4	外面 口縁部ヨコナデ・体部～底部ヘラケズリ。丸底。口縁部は直立気味。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部指ナデ。	
6	土師器 环	口径 12.4 底径 — 器高 3.6 ③4/5	①チャート・石英・角閃石 ②明赤7.5TR5/6 ③4/5	外面 口縁部ヨコナデ・体部～底部ヘラケズリ。丸底。口縁部は外反して開く。 内面 口縁部ヨコナデ・体部～底部ナデ。	
7	土師器 甕	口径 (24.3) 底径 — 器高 — ③標印516.6	①チャート・石英・黒色粒 ②標印516.6 ③口縁部へ胴部上位1/5	外面 口縁部ヨコナデ・胴部ヘラケズリ。口縁部は「く」の字形に閉じる。 内面 口縁部ヨコナデ・胴部ヘラナデ。	
8	須恵器 甕	口径 24.0 底径 — 器高 17.5 ③3/4	①石英・黒色粒・白色粒 ②暗オリーブ灰2.5TR4/1 ③3/4	外面 口縁部ヨコナデ・胴部平行タタキ後ナデ。丸底。口縁部は外反し、口部は上下に短く延びる。 内面 口縁部ヨコナデ・胴部間折状の当瓶形。	胴部最大径 44.3cm
9	羽口	土製品 残長: 15.1cm 厚さ: 2.0 cm 色調: 外面一灰褐色 内面一明赤褐515/6	胎土: チャート・石英・黒色粒	胎土: チャート・石英・黒色粒	小破片。
10	須恵器 环	口径 13.1 底径 6.1 器高 3.7 ③1/2完形	①チャート・石英・角閃石 ②灰2.5TR5/2 ③1/2完形	外面 ロクロ整形。底部回転系切り無調整。口縁部は外反する。 内面 ロクロ整形。	鉢込み遺物。 内面に保材着。

W-2号溝(1)

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	須恵器 蓋	口径 (14.4) 底径 — 器高 — ③口縁部	①堅軟 ②黄灰2.8TR4/1 ③口縁部	外面 ロクロ整形。 内面 ロクロ整形。返りを持つ。	
2	土師器 环	口径 10.5 底径 — 器高 3.3 ③2/3	①チャート・石英・黒色粒 ②標印806.6 ③2/3	外面 口縁部ヨコナデ・体部～底部ヘラケズリ。丸底。口縁部は内彎する。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	
3	土師器 环	口径 12.3 底径 — 器高 3.3 ③1/3	①石英・黒色粒・白色粒 ②標2.5TR6/6 ③1/3	外面 口縁部ヨコナデ・体部ナデ、底部ヘラケズリ。丸底氣味で体部との境は不明瞭。口縁部は内彎する。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	
4	土師器 环	口径 (14.3) 底径 4.2 器高 4.2 ③1/2	①チャート・石英・黒色粒 ②標2.5TR6/6 ③1/2	外面 口縁部ヨコナデ・体部ナデ、底部ヘラケズリ。丸底。口縁部は直立気味。 内面 口縁部へ体部ヨコナデ、底部ナデ。	
5	須恵器 (高盤)	口径 — 底径 — 器高 — ③標印欠損する台部	①チャート・石英・黒色粒 ②灰5TR6/1 ③標印欠損する台部	外面 台部ナデ。 内面 台部ナデ。	
6	土師器 甕	口径 16.1 底径 — 器高 18.2 ③2/3	①チャート・石英・角閃石 ②にぶい橙7.5TR6/4 ③2/3	外面 口縁部ヨコナデ・胴部～底部ヘラケズリ。丸底。 内面 口縁部ヨコナデ・胴部～底部ナデ。	

W-2号溝(2)

7	須恵器 甕	口径 底径 器高	- - - ①石英・黒色粒・白色粒 ②灰56/ ③胴部下位～底部	外面 脇部～底部平行タタキ後ナデ。 内面 脇部～底部木目状の当具痕・ナデ。	底部に径3cm ほどの後成後 穿孔あり。
8	須恵器 甕	口径 底径 器高	- - - ①堅無 ②灰4/ ③口縁部片	外面 口縁部に櫛描波状文。口唇部は上方に伸びる。口唇部 と口縁部下に凹窪。 内面 口縁部ナデ。	内面口縁部に 縦刻「×」あ り。
9	(円筒埴輪)	口径 底径 器高	- - - ①片岩・チャート・黒色粒 ②赤褐5YR4/6 ③破片	外面 タテハケ (7本/2cm)。突帯断面13M字状。 内面 ナデ。	

W-3号溝

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 12.3 底径 8.9 器高 3.2	①石英・黒色粒・白色粒 ②灰7.5YR6/6 ③1/2	外面 口縁部ヨコナデ、体部ナデ指頭压痕、底部ベラケツリ。 内面 口縁部～体部ヨコナデ・指頭压痕、底部ナデ。	

W-7号溝

番号	器種	計測値(cm)	法量等	備考
1	土鍤	長さ：3.3cm 幅：2.3cm 厚さ：0.45cm	残重：9.79g 胎土：石英・黒色粒・白色粒 色調：赤褐色VR4/6	1/2残存。

W-14号溝

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	土師器 环	口径 12.6 底径 8.0 器高 3.5	①石英・黒色粒・白色粒 ②灰4.5YR6/4 ③胴部片	外面 口縁部上端ヨコナデ、以下～底部。体部やや彫曲して 内側氣味の口縁部に至る。 内面 口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ。	内外底部に墨 書き。外は「及」 か。内は不明。

遺構外出土遺物

番号	器種	計測値(cm)	①胎土②色調③残存	成・整形等の特徴	備考
1	圓文土器 环	口径 12.6 底径 8.0 器高 3.5	①石英・黒色粒・白色粒 ②灰F2.5YR8/2 ③胴部片	單體圓文後に續位の沈線区画。	中期加賀利 E 3式。
2	磨製石斧	長さ：6.95cm	幅：2.8cm 厚さ：1.5cm	重さ：52.7g 石材：緑色岩類	刃部に使用痕。
3	打製石斧	残長：7.0cm	幅：6.65cm 厚さ：2.2cm	重さ：116.0g 石材：頁岩	分離形
4	須恵器 提瓶	口径 底径 器高	- - - ①黒色粒・白色粒 ②灰5Y5/1 ③口部下位～肩部	外面 ロクロ整形。肩部に円形貼付2。 内面 ロクロ整形。	
5	須恵器 ナリ鉢	口径 底径 器高	- - - ①黒色粒・白色粒 ②灰5Y6/1 ③底部	外面 底部ナデ。厚い円板状の底部。 内面 ロクロ整形。	

VI 調査のまとめ

今回の調査では、7世紀後半～9世紀後半を中心とする竪穴住居跡20軒・遺物集中遺構1基・掘立柱建物跡1棟・井戸2基・土坑25基・ピット85基・溝14条が検出された。本遺跡は先述した広瀬古墳群の範囲内に位置するが、調査区内からは埴輪片が数点出土しているものの、古墳の周堀等は確認されなかった。なお、出土した埴輪は胎土の特徴から藤岡地域で生産されたものと考えられる。

古墳の空白域であった当地において、人々の生活痕跡が顕著に残されるのは7世紀後半頃からで、H-4・6・7・16・17号住居跡、B-1号掘立柱建物跡（以下1号掘立）、W-1・2号溝を当該期と判断した。竪穴住居跡は後続する遺構との重複等で不明な点が多いが、1号掘立は拡幅調査の結果、桁行3間×梁行3間の純柱建物跡であることが判明した。W-1・2号溝は約43mの間隔で平行する状態にあり、規模・形態等の類似性や出土遺物などから、両溝は同時期に機能していたと想定される。1号掘立は廃絶後に9世紀代の竪穴住居跡が構築されていることから、それ以前に立てられたことは確実であるが、伴出遺物が少ないこともあり明確な時期決定の傍証資料に欠ける。しかしながら、1号掘立の長軸方位（N-51°-E）とW-1・2号溝の軸方向（N-50°-E）がほぼ同じ状態にあり、これらを同時期の遺構と判断しても矛盾は生じない。

したがって、7世紀後半代における本遺跡の景観を「溝区画内に掘立柱建物と竪穴住居が存在していた」とする復元も十分可能である。それは、古墳時代前～後期にみられる「居館跡」に類似する様相ともいえる。居館跡の堀の各辺が東西南北方向から45°前後の偏角を持つものが多いことが指摘されている（長井2001）が、本遺跡のW-1・2号溝もそれを首肯できる状態にある。

本遺跡の北西には上川瀬鶴巻II遺跡が近接し、同遺跡ではN-40°-Wに走行する溝が66mにわたって調査されている。本遺跡のW-1号溝と有機的に関連する可能性も考えられ、出土遺物の比較などにより検証することが今後の課題といえよう。

前方後円墳消滅後の7世紀代においても、「居館」的なものが遺制として残る可能性の一端を示唆し、本報告のまとめとしたい。

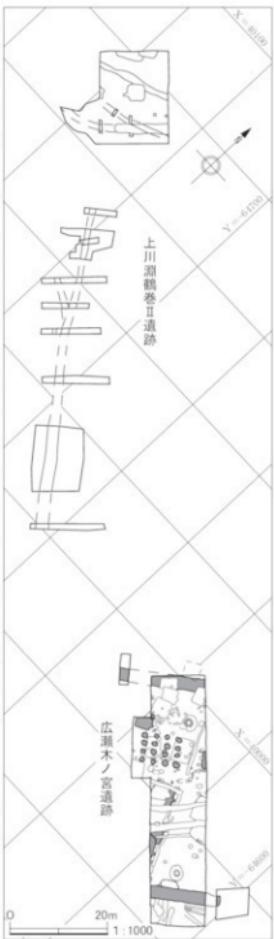


Fig. 54 本遺跡と上川瀬鶴巻II遺跡の位置

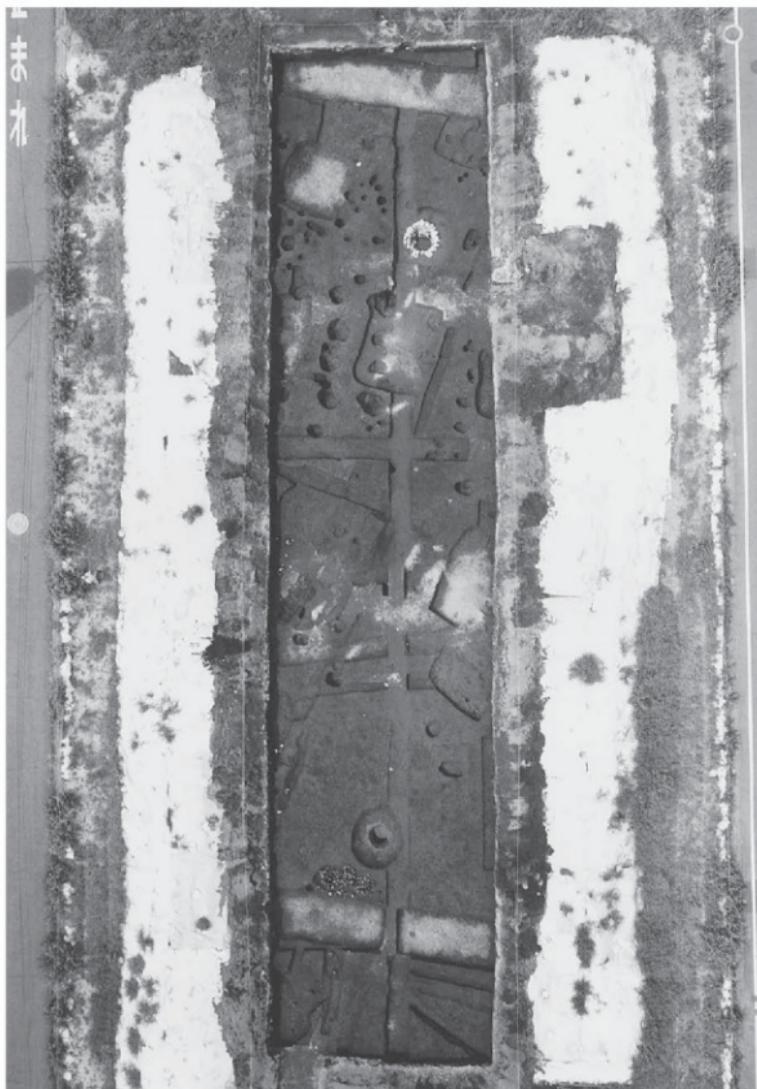
【参考文献】

長井正欣ほか 2001 『石田川遺跡』 石田川遺跡調査会

写 真 図 版



遺跡の位置と周辺の地形（国土地理院発行、平成13年10月撮影、S ≈ 1 : 30,000）



調査区全景（上が北西）



H-1号住居跡全景（西から）



H-1号住居跡カマド（西から）



H-2・9号住居跡全景（西から）



H-9号住居跡カマド（西から）



H-3・15号住居跡全景（西から）



H-3号住居跡遺物出土状況（東から）



H-4・14号住居跡全景（西から）



H-5号住居跡全景（西から）



H-5号住居跡カマド礫出土状況（西から）



H-5号住居跡カマド（西から）



H-6号住居跡全景（西から）



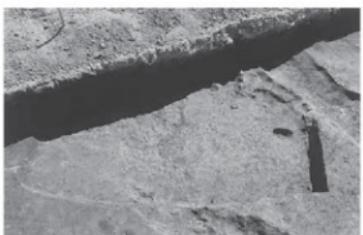
H-7号住居跡全景（北から）



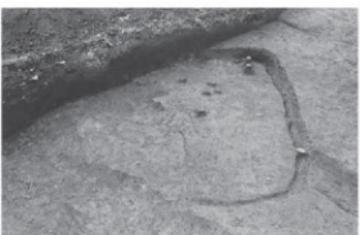
H-8号住居跡全景（西から）



H-10号住居跡全景（西から）



H-12号住居跡全景（西から）



H-13号住居跡全景（西から）



H-16・17号住居跡全景（北から）



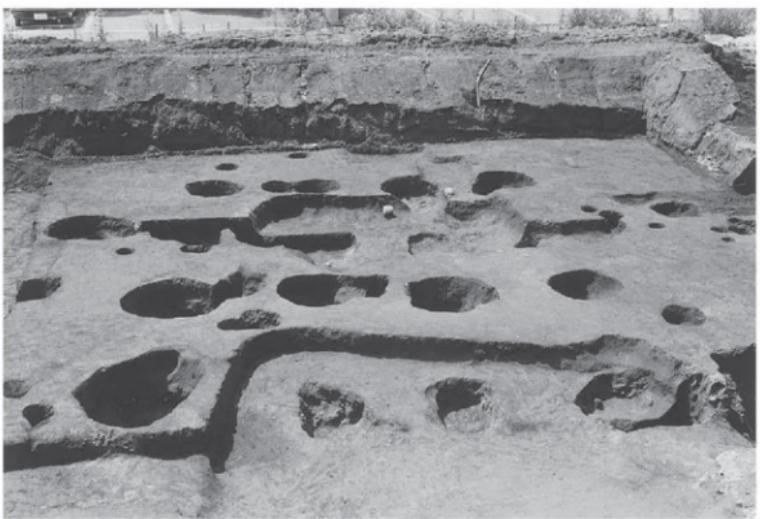
H-18・19号住居跡全景（北から）



H-20号住居跡全景（東から）



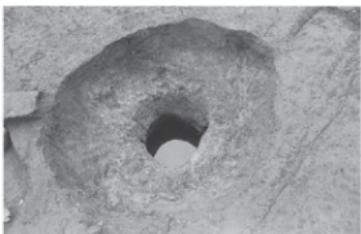
B-1号掘立柱建物跡P6セクション（南西から）



B-1号掘立柱建物跡全景（北東から）



I-1号井戸全景（東から）



I-2号井戸全景（東から）



W-1号溝遺物出土状況（北東から）



W-2号溝セクション（南西から）



1号遺物集中遺構遺物出土状況（上が南西）



H-1号住居跡出土遺物



H-2号住居跡出土遺物



H-3号住居跡出土遺物



H-4号住居跡出土遺物



H-5号住居跡出土遺物



1

H-6号住居跡出土遺物



1

H-7号住居跡出土遺物



1



2



3



4

H-8号住居跡出土遺物



1



3



2

H-9号住居跡出土遺物



1



2



3



4

H-10号住居跡出土遺物



1



2

H-12号住居跡出土遺物



1

H-13号住居跡出土遺物



1



2



3



4



5



7

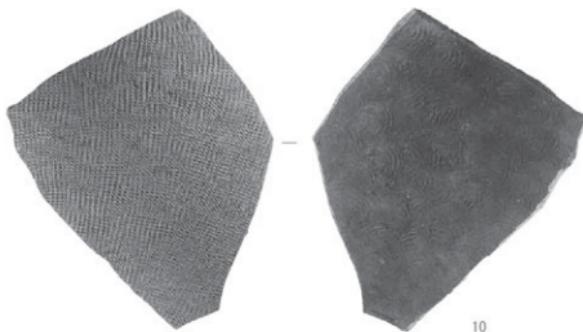


8



9

H-14号住居跡出土遺物(1)



10



11

H-14号住居跡出土遺物(2)



1

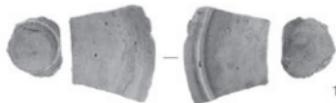


2



3

H-15号住居跡出土遺物



1



2

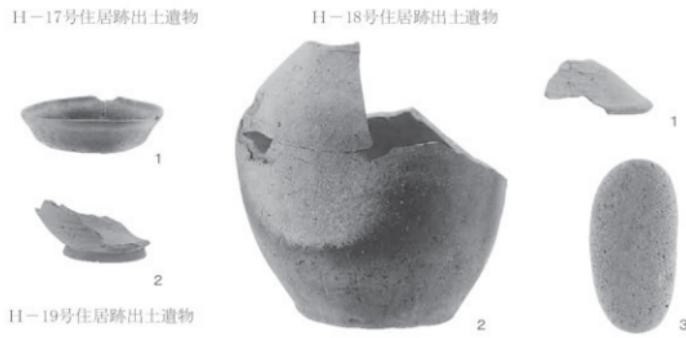
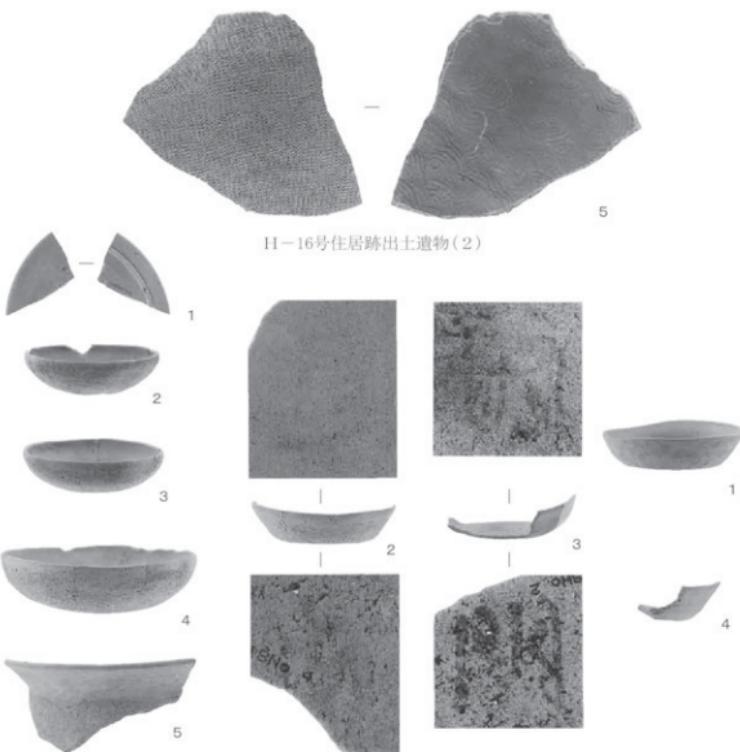


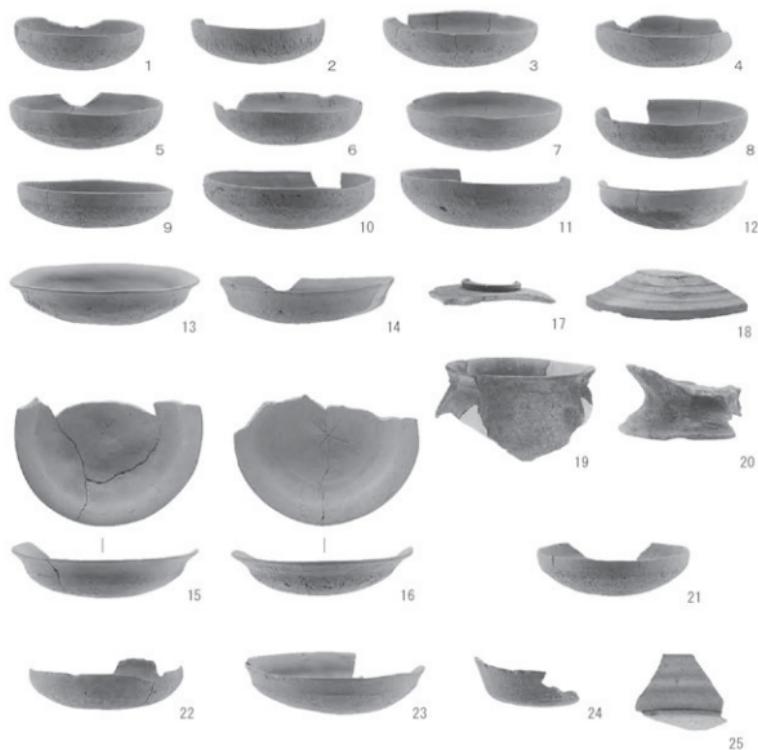
3



4

H-16号住居跡出土遺物(1)





1号遺物集中遺構出土遺物



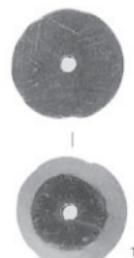
I-1号井戸出土遺物(1)



I-2号井戸出土遺物



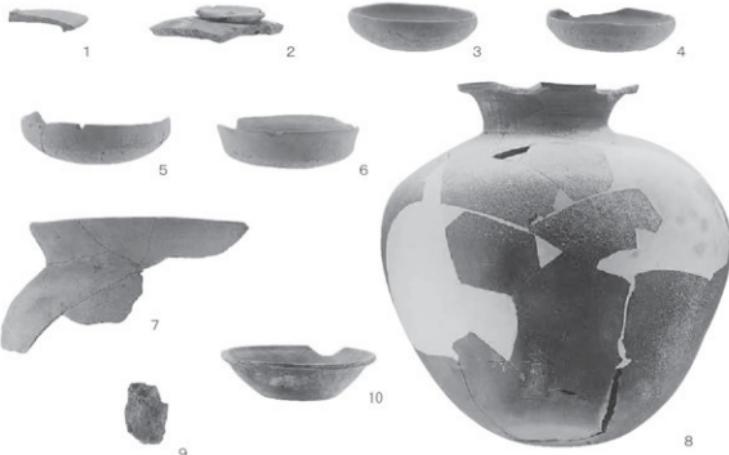
I - 1号井戸出土遺物(2)



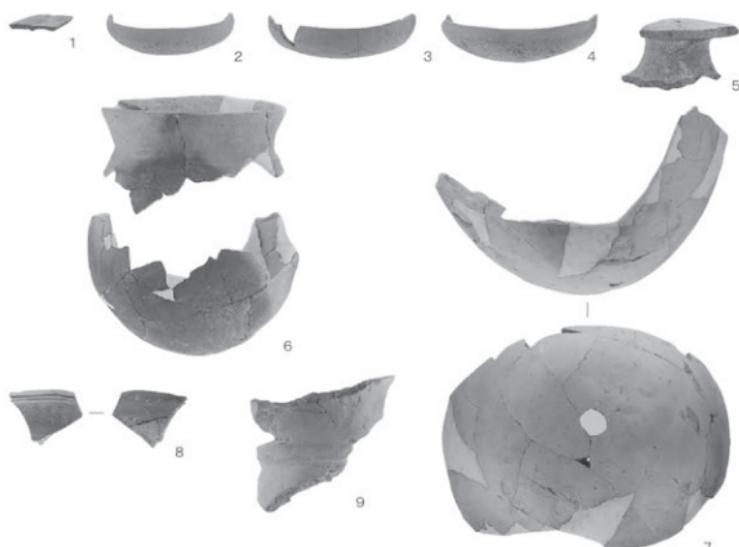
D - 8号土坑出土遺物



51号ピット出土遺物



W - 1号溝出土遺物



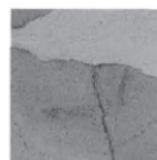
W-2号溝出土遺物



W-3号溝出土遺物



W-7号溝出土遺物



W-14号溝出土遺物



遺構外出土遺物

報告書抄録

フリガナ	ヒロセキノミヤイセキ
書名	広瀬木ノ宮遺跡
副書名	市営住宅建設（広瀬第五団地U棟新築）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者名	鈴木雅浩 伊藤順一 宮田忠洋
編集機関	(有)毛野考古学研究所
	〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 TEL 027-265-1804
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団 〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2 TEL 027-231-9531
発行年月日	西暦 2006(平成18)年12月8日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所 在 地	コード		位 置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡	北 緯	東 緯			
ヒロセキノミヤイセキ 広瀬木ノ宮遺跡	群馬県前橋市広瀬町 三丁目20番ほか	10201	18658	36°2'18"	139°0'59"	06/0620 ~ 06/1208	700 m ²	市営住宅建設

所収遺跡名	種 别	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
広瀬木ノ宮遺跡	集落跡	古墳時代末～ 奈良・平安時代 中世	壙穴住居跡 20軒 遺物集中遺構1基 掘立柱建物跡1棟 井戸 2基 土坑 25基 ピット 82基 溝 14条	調文土器、石器、土師器、 須恵器、墨書き器、鐵製品、 鍛冶、羽口、円筒埴輪、瓦石、 筋鉢車、火打石	7世紀後半の溝と掘立柱建物跡が検出される。

平成18年度
広瀬木ノ宮遺跡
市営住宅建設(広瀬第五団地U棟新築)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成18年12月1日印刷

平成18年12月8日発行

編集／(有)毛野考古学研究所

発行／前橋市埋蔵文化財発掘調査団

〒371-0018 群馬県前橋市三保町二丁目10-2

電話 (027) 231-9531

印刷／朝日印刷工業株式会社